

ストーカーに狙われ監禁された清純なアイドル！ 処女喪失の危機！



敏感アイドルと 快感ゴースト

後編

何で
こんな…？

何…？

や…やだ…！



…!!

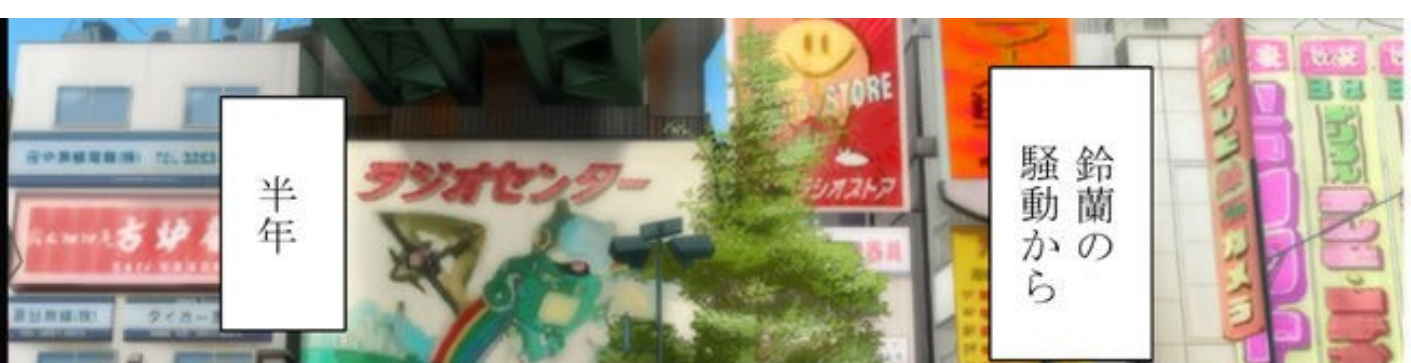
びんびん

びんびん

もうアイツは

封印
したはずなのに…！

びんびん



半年

鈴蘭の
騒動から



西園寺ヒナリ
サイン会

何事もなかったかの
ように

私は
すっかり

元の
アイドルとしての生活に
戻っていた



ありがとうございます
ございます



頑張って下さい

あ…
あの…



鈴蘭にとりつかれた
経験からか
前よりもセクシーに
なったって
みんなに言われるし

あれからとくに
変わったこともなく

むしろ
芸能活動は順調で



あの男の人
いっつもイベント
来てくれるね

ヒカリちゃんも
熱狂的な固定ファンが
ついてきたって
ことかな？

うーん
自分では実感は
沸かないんですけどね

以前 暴走した
プロデューサーさんは
私に申し訳なく
思っているのか

よく
仕事をふってくれるように
なったし

人気も知名度も
半年前に比べて
随分と上がったし

あの騒動も
悪くはなかったかなって
思い始めてた…



でも

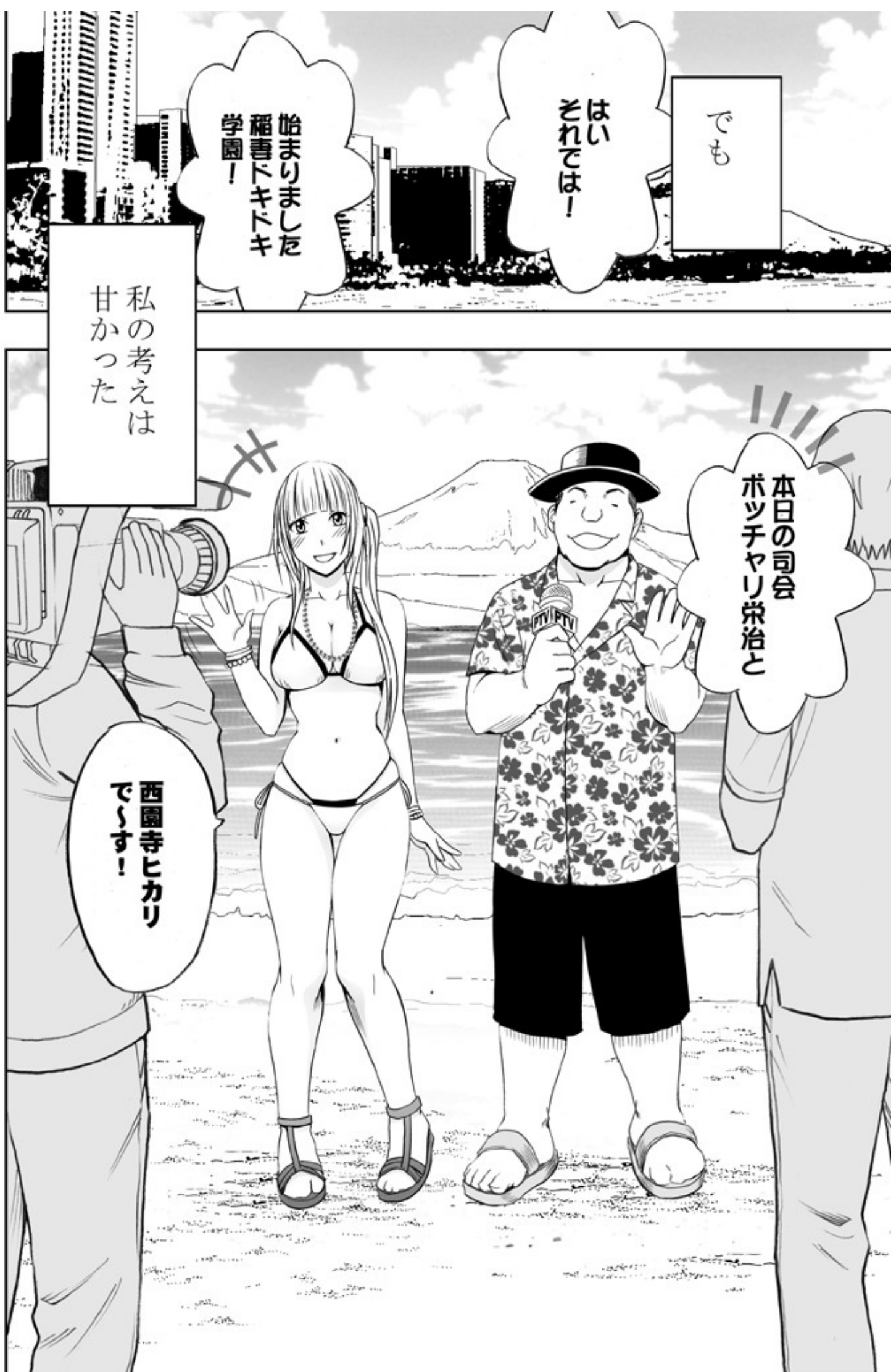
はい
それでは！

始まりました
稲妻ドキドキ
学園！

私の考えは
甘かった

本日の司会
ポッチヤリ栄治と

西園寺ヒカリ
です！





現世に
未練を持ち
さまよう怨霊

その活動の
糧となるのは
人間の強い感情

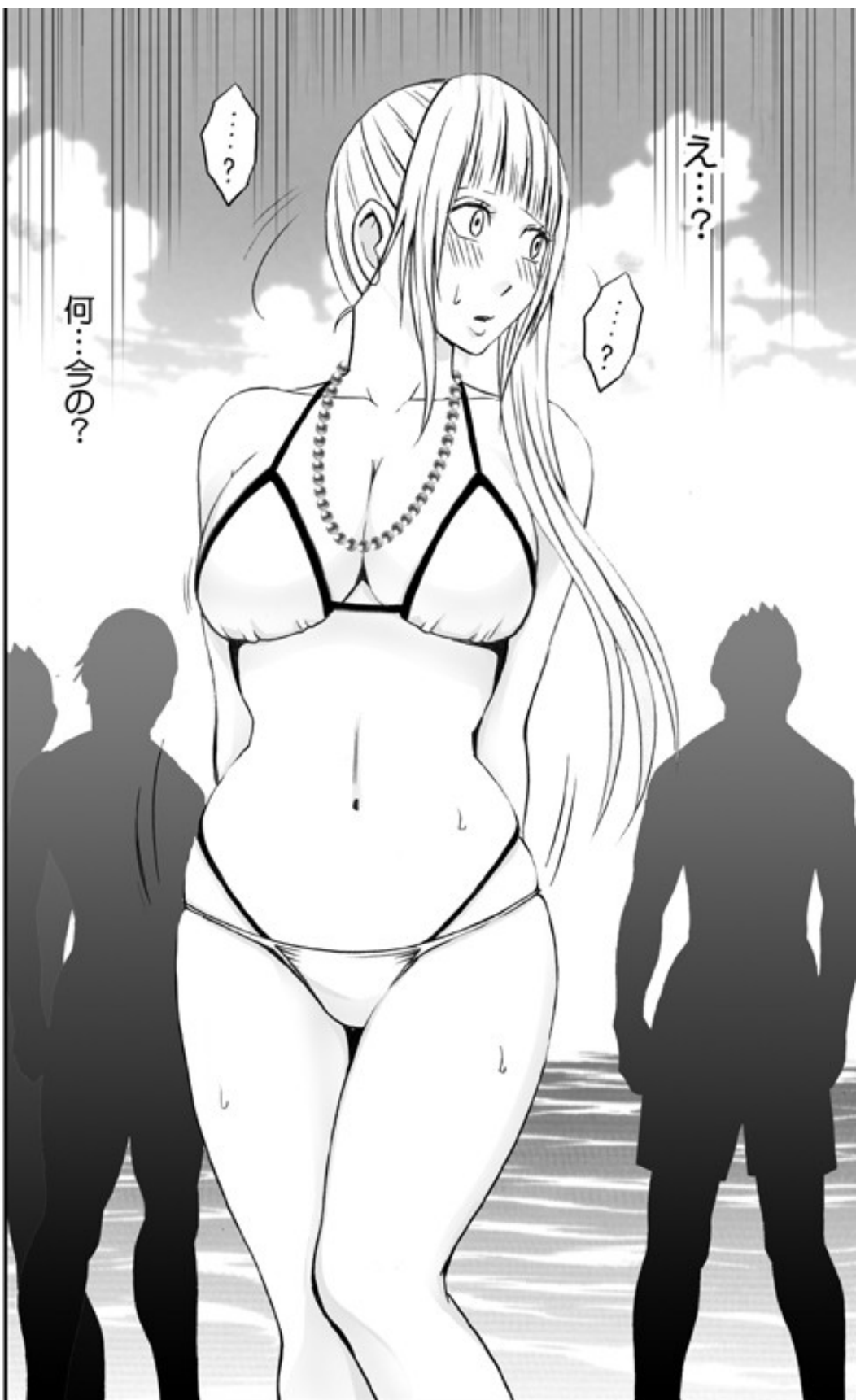
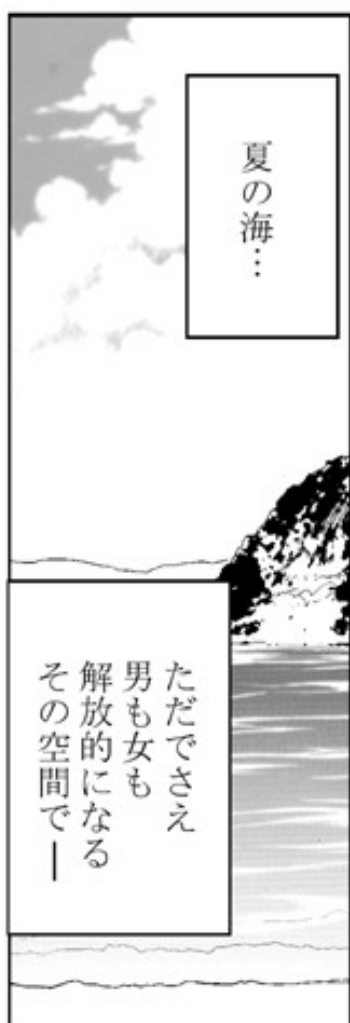
淫霊である
鈴蘭のエネルギー
となるもの

それは
淫気

人が
持ちうる

性への欲求







……!?

揉みてえ〜…

もみ

もみ

オッパイ
触りたいな〜



何…この

頭の中に
入ってくるイメージは…!!?

たまんええ
カラダ



また…?

…!!



乳房
たってる？

何なの？
幻覚？

なんだよ...

エロいな

さわさわ

オッパイ
でかいなあ



ホント何なの...？

今...
ハシな声が出そう...



ん？
どうしたの
ヒカリちゃん

あ...いや...
何でも...

ちよっ...さほ...!!

あの...!!



テレビ収録という
ただでさえ
目立つ行為で

露出度の高い
水着姿を
さらし続けることで

ありえない程の
男たちの欲望が
一時的に
私に集中して



エロい水着
着やがって

巨乳

エロい

いやらしい
カラダ

目に見えない



乳首
舐めてえ

欲望の塊が

へろへろ
してえ

私にぶつかってきて

敏感そうな
おっぱい

肌スベスベ





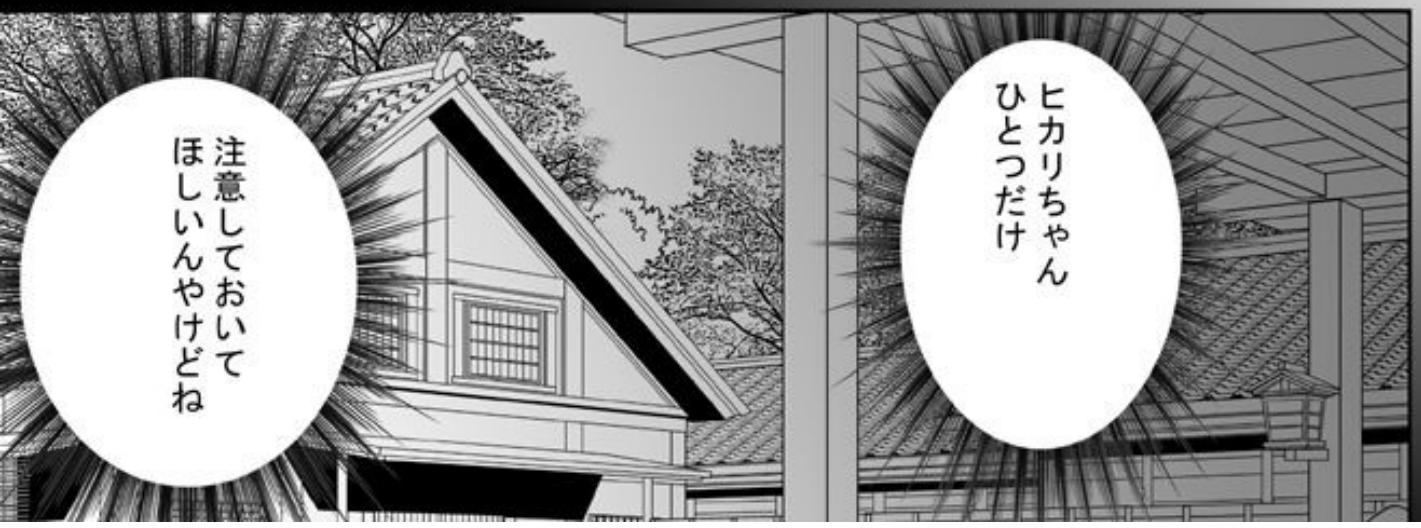
ただの幻覚なんて
レベルじゃない!

あぁ……!

何か……!

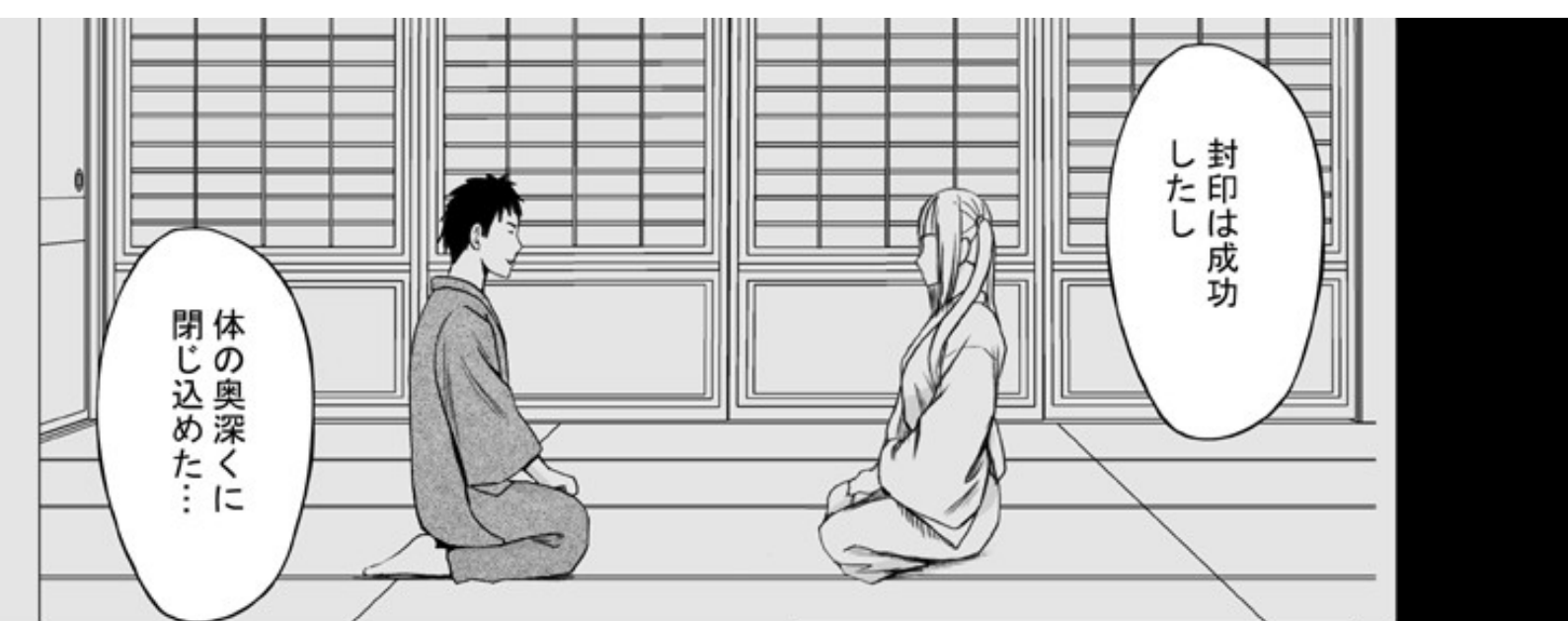
体の奥が
熱くなって……!

あぁ……!




注意しておいて
ほしいんやけどね

ヒカリちゃん
ひとつだけ




封印は成功
したし

体の奥深くに
閉じ込めた…




もちろん普通にしたら
簡単に封印が
解けることはないけど

もしかしたら
何らかの力が…



外からの
強い力が
加わったりしたら

封印が解けることも
あるかもしれんから



気をつけなね
ヒカリちゃん

鈴蘭は—



決して

消えたわけやない



そんな目で
見られたら...



ダメ...!!

そんな風に見ないで...!!



思っコトじゃ...!!

おのまの...!!

おのまの...!!

尋常じゃないほど
集中する視線

尋常じゃないほど
集中する欲望

あ

あ

あ

裸に見たい

アイドルとして
人気がでたことが

仇になって
しまっていた

たまんねえ

エロい

エロすぎる

びんびん

びんびん

ああ…

ヤリてえ…!!





待って……!

何か
こみ上げてくる……!

何……!

この感覚……!

何……!







男達の欲望の視線
すべてが

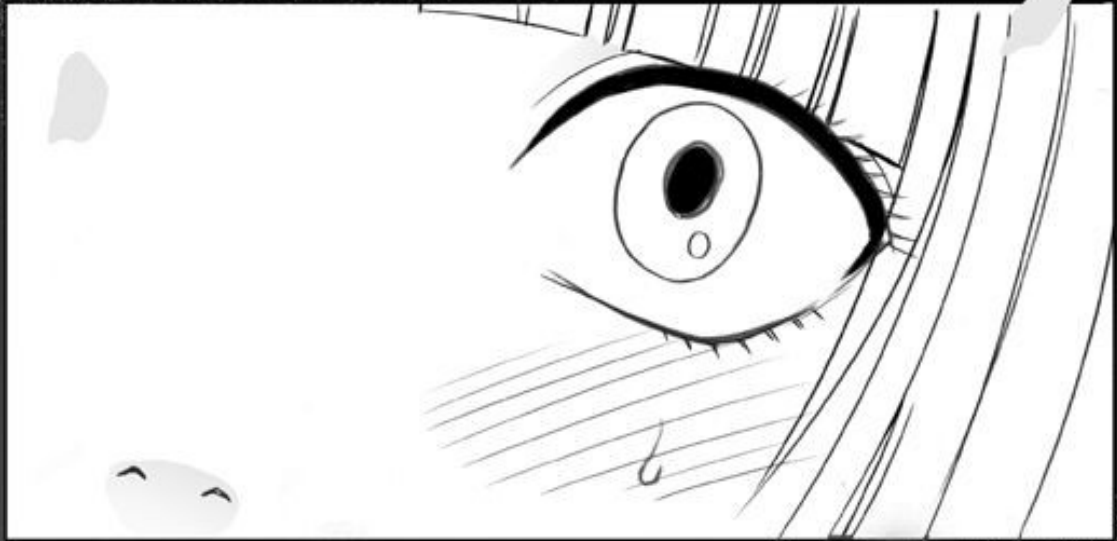
たぎってくるような
高揚感……!



私に力を
与えてくれる……!





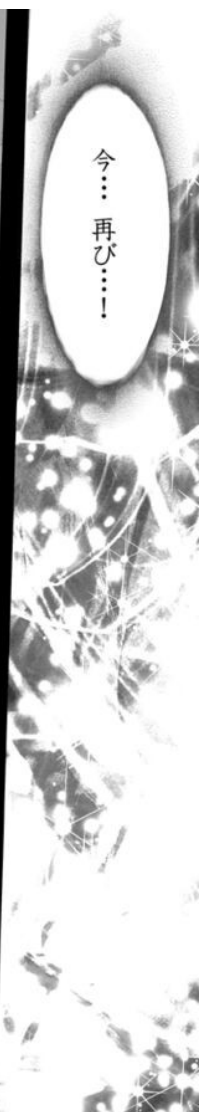


天は
もう一度だけ

私に好機をくれると
言うのね

めくるめく
快樂の世界へ…





今…再び…!



ヒカリ

ひめじいね

そして
鈴蘭は



ふたたび

私の前に
現れた

敏感アイドルと
快感ゴースト

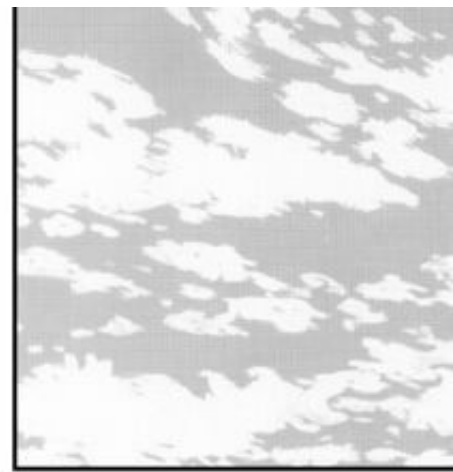


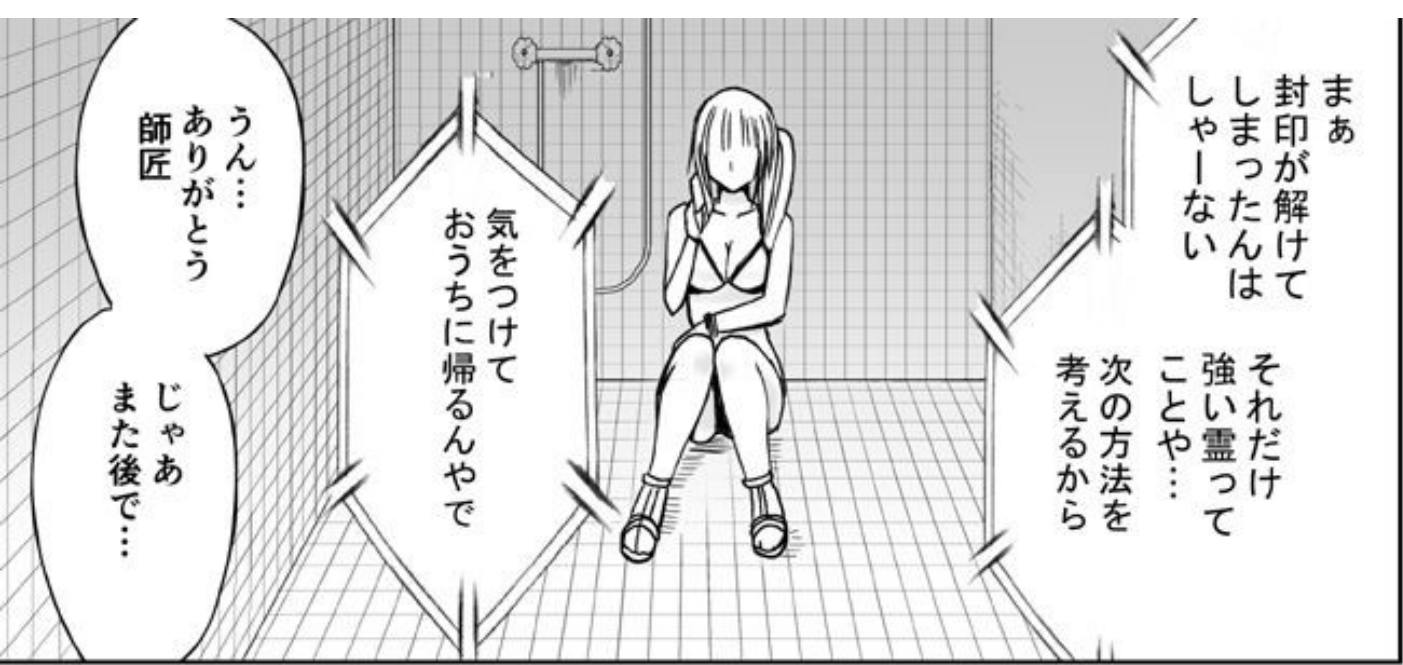
第9話

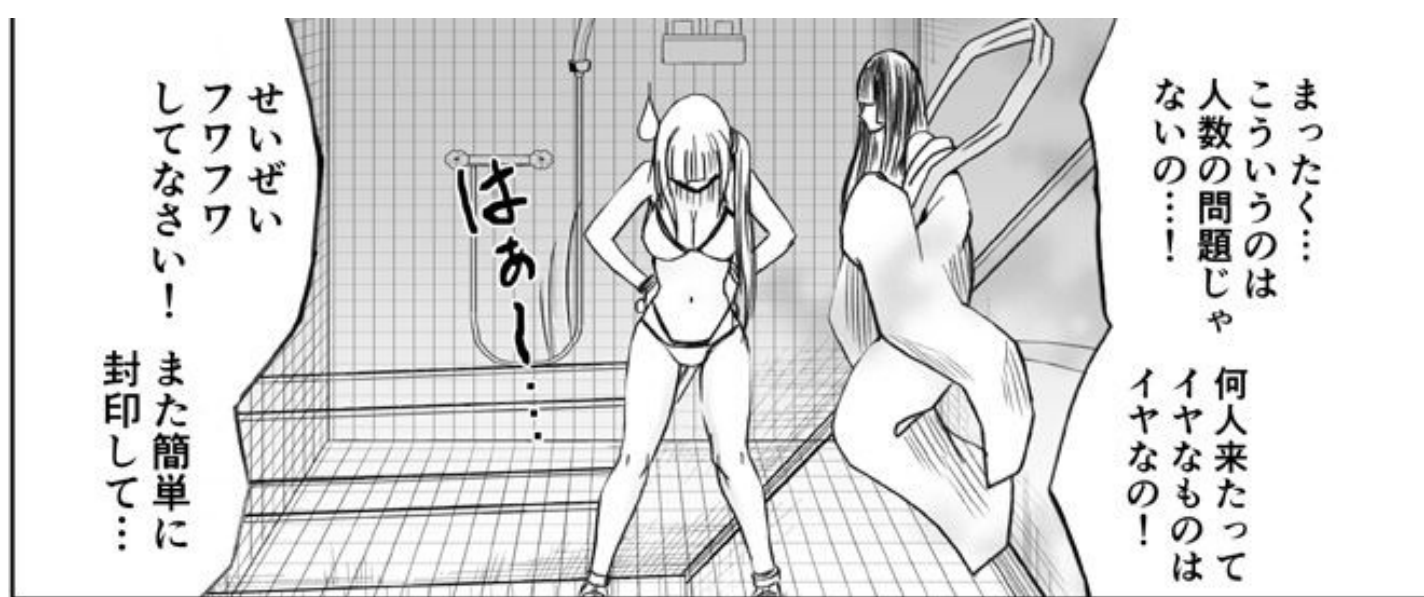
そして

悪夢のはじまり









まったく…
こういうのは
人数の問題じゃ
ないの…!!
何人来たって
イヤなもの
はイヤなの!

せいぜい
フワフワ
してなさい!
また簡単に
封印して…



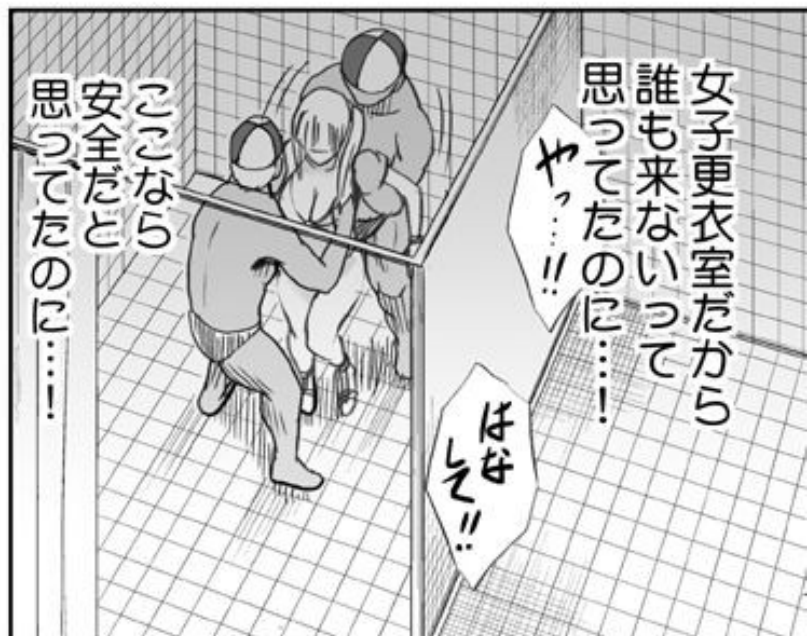
失礼
します



キッ

…!!







いやっ…!!
この男たち
力がありすぎて

ちょっと
心音に乱れがありますね

全然
抵抗できない!!

これは
危険ですね
クワッ...



クワッ



やっ…!

もう少し
ちゃんと
チェックしたほうが
良さそうですね

じゃあ
着衣取りま〜す

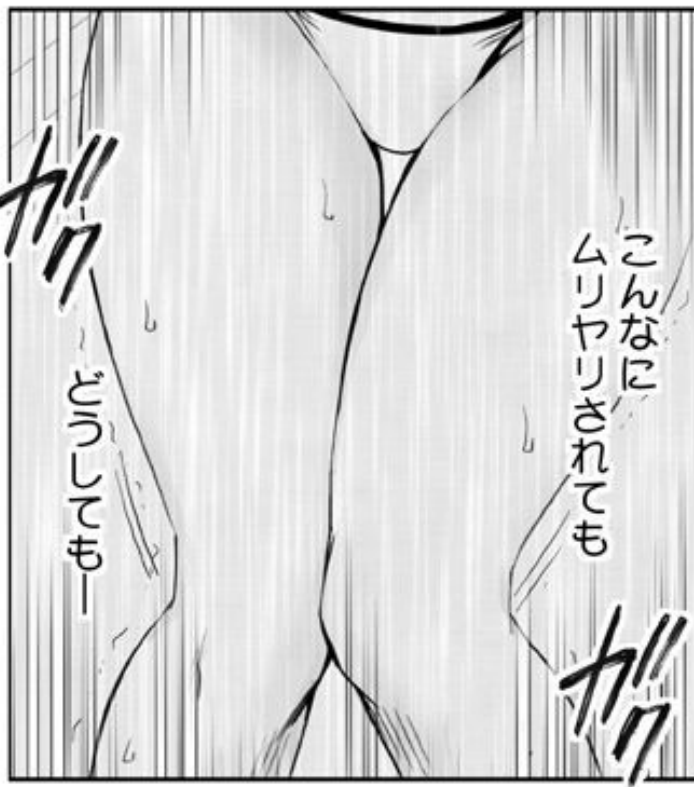


いやっ!



分かってたけど

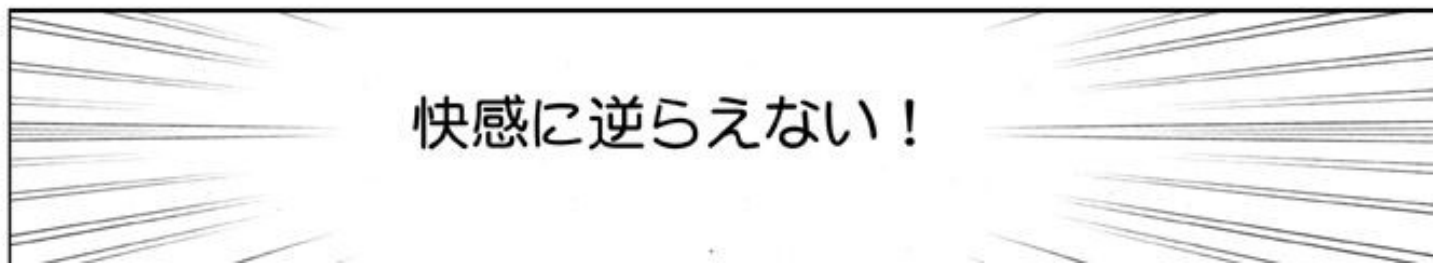
ああ……ごほうじさ



こんなにムリヤリされても



鈴蘭に蝕まれたこのカラダは…



快感に逆らえない!





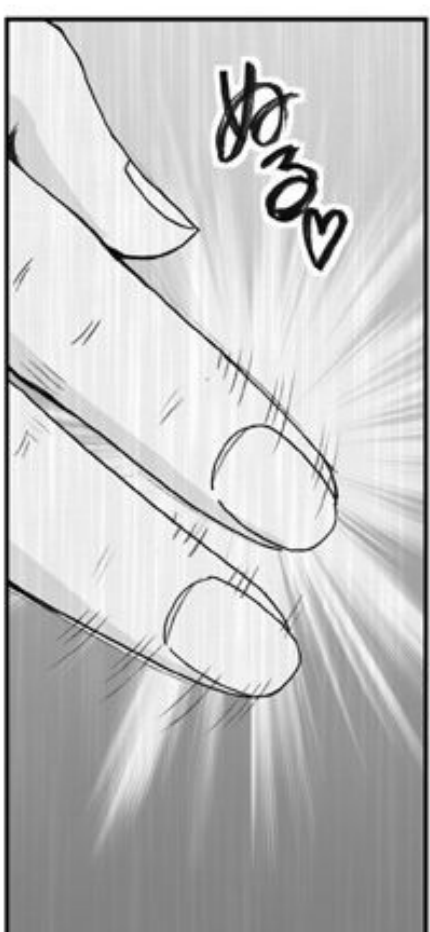
抵抗しちや
ダメよ

ほら男たちに
かわいがって
もらいなさい

びびっ♡

びびっ♡

ちゅっ♡
ちゅっ♡



ぬるっ♡



カッ!!

何をされても
イッてしまう
カラダをね…!!



その
敏感すぎて

アッ♡





どうやら
随分と
たまつてみたいね

フッフフ…
そんなに
気持ちイイの？

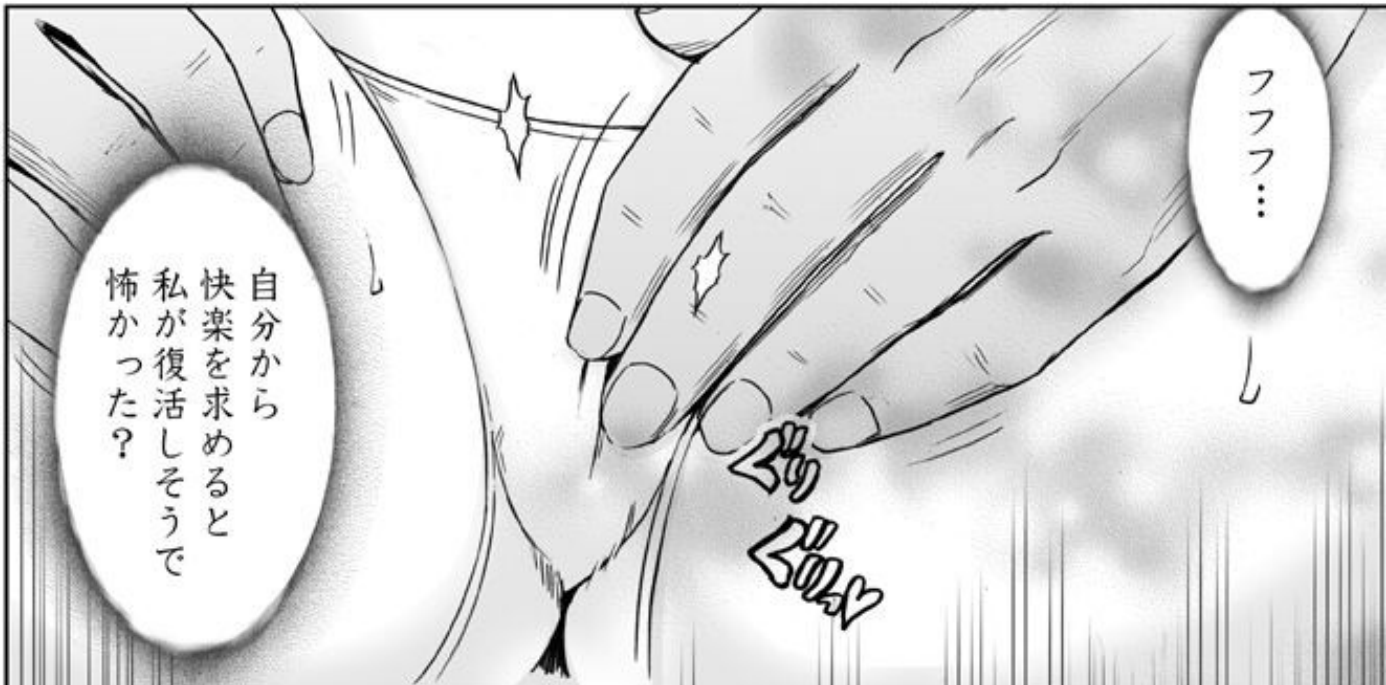


……



自慰も
してなかったの
かしら？

もしかして
私が
封印されてから



自分から
快楽を求めると
私が復活しそうで
怖かった？

フッフフ…



私にとり憑かれてた
間に
あんなに気持ちいい
体験をしておいて

気持ちいいことを
知っておいて

よく
自慰もせずに
ガマン
できたわね？



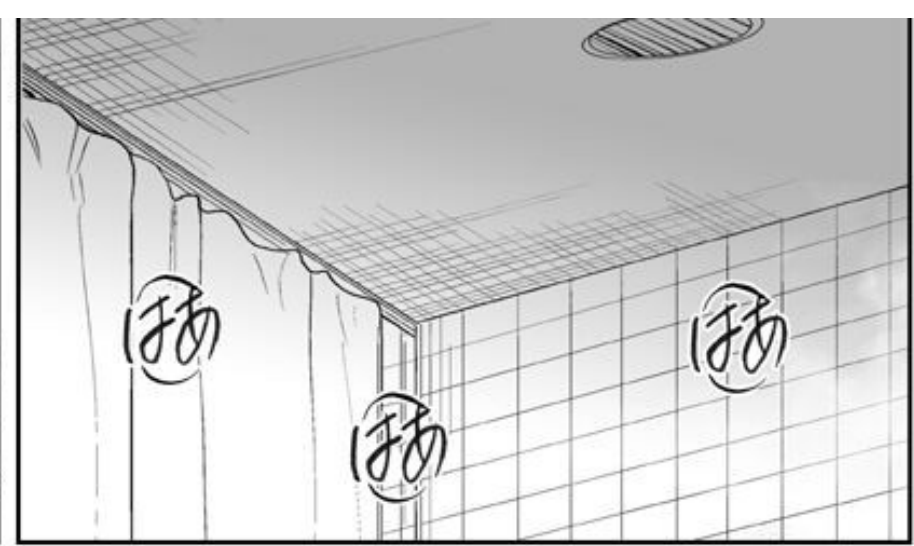
でももう

そんな
ムリじゃなくて
いいのよ

何も考えず
ただ快樂に
身をゆだねて

果てなさい







究極の快感に
近づいてる

あなたのカラダは
確実に

ニャアアア





どうですか？
体調のほうは
良くなって
来ましたか？

もっと
マッサージとか
したほうが
いいですかね？
フフフ



ベッドの
あるところに
連れて
行きましょう

続きは
そこで
じっくりと…
フフフ



でも…
この人たちが
淫気で
動いているの
なら…!!



ダメだ…!!
力じゃ
勝てない!!
まともな
抵抗しても
ダメだ…!!







また…

師匠に
助けられちゃったな…



早く…

もう一度

おかえり

ヒカリちゃん

師匠に会いたい…



……



それから私は
前回の反省をいかして
公共の交通施設を
使わずに

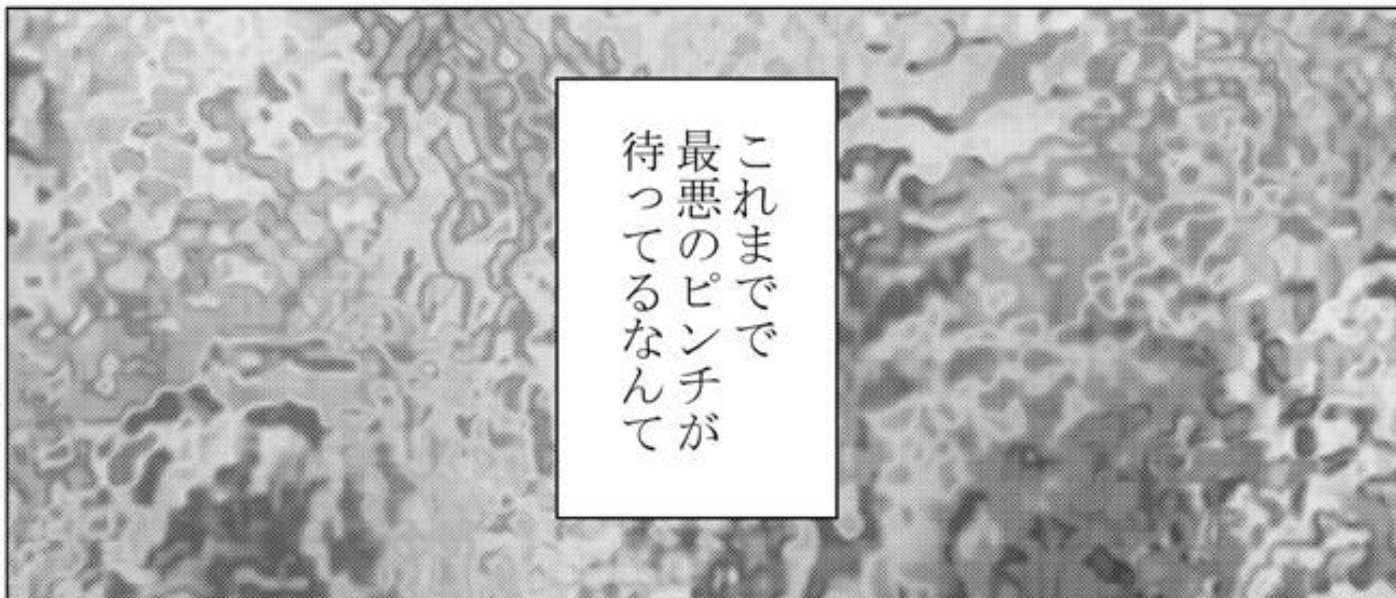
女友達の車に
乗せてもらって

なんとか何事もなく
家までたどりつくことが
出来ただけだ



思っても
いなかった

まさか自宅で



これまでに
最悪のピンチが
待ってるなんて

敏感アイドルと
快感ゴースト

鈴蘭が復活して
数日

無事
家に帰ってきた
私は

極力男性に
近づかないように
生活しながら

また師匠のお寺に
行くための準備を
していた

つまらない
誰もいない

何でもっとキラキラした
男たちが
ざわめく歓楽街に
行かないの？

ゆえ
ゆえ

私も

もうこれ以上
知らない男の人たちに
襲われるのは
ゴメンだから

アンタの思い通りには
ならないからね

前回
とり憑かれた時は
無計画で飛び出して
いろいろ
大変だったから

今回は
同じ失敗は
繰り返さない！

ちゃんと事務所にも
連絡して
お仕事も数日間
正式にお休みを
もらうことが
出来たし

(前は無断で休んぞ
怒られた...)

車を持つてる
お友達の女の子の
予定も確保出来て

明日には
車で送ってもらえる
ことになったし

万が一に備えて
食料とか護身用具とか
現金もそろえたし

今回は
準備ばっちり♪

あくあ
また私...
封印されちゃうの？

今度もまた
うまくいくとは
限らないわよ

それに...どうせまた
復活しちゃうん
だからね
フフフ...

ねえヒカリ

何がそんなに
気に食わないの？

あなただって
男にカラダを弄ばれて
イッてるじゃない？

...

気持ちいいんでしょう？

気持ちいいのに
イヤなの？



知らない男たちに
襲われるのは
イヤって言ってたけど

じゃあ
あなたのことを
知ってる

あなたのことを
大好きな人に
襲われるのなら
いいかしら？



あら？
赤くなつた？
どうしたのかしら？

いんげん

ちよっ…
なんでもない！

いつものように
鈴蘭と

うるさい
うるさい
うるさい



……

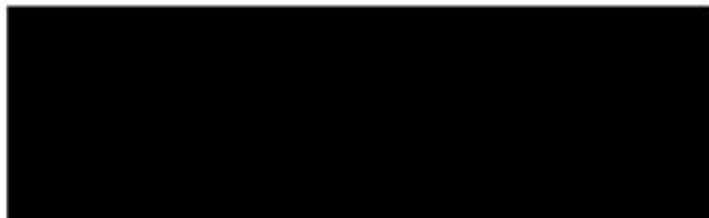
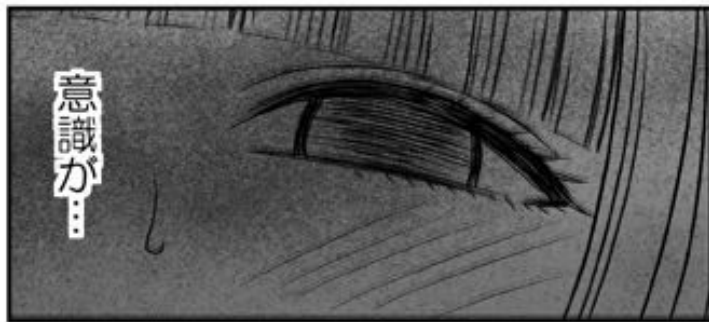
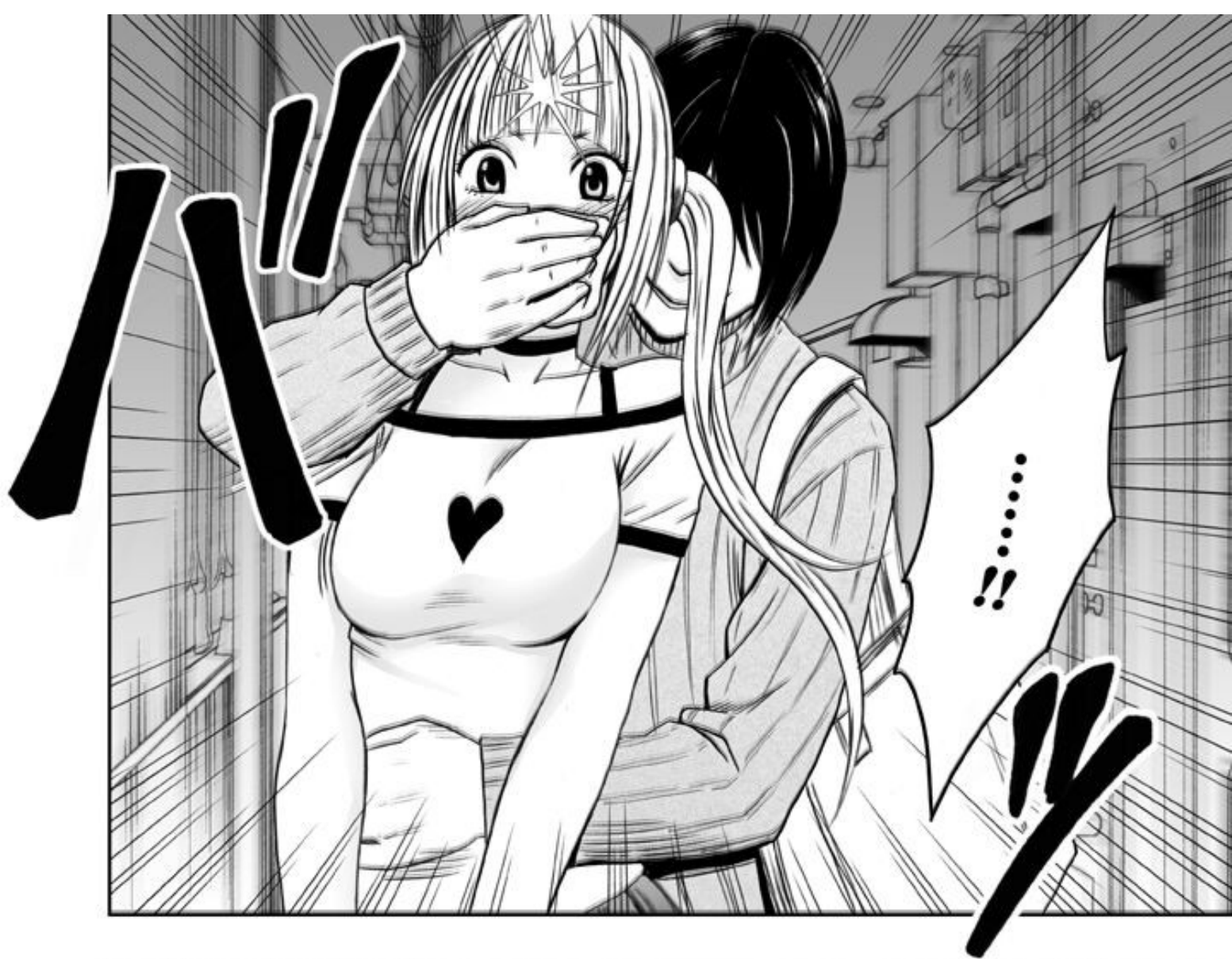


その時



結論もでない
議論をしながら

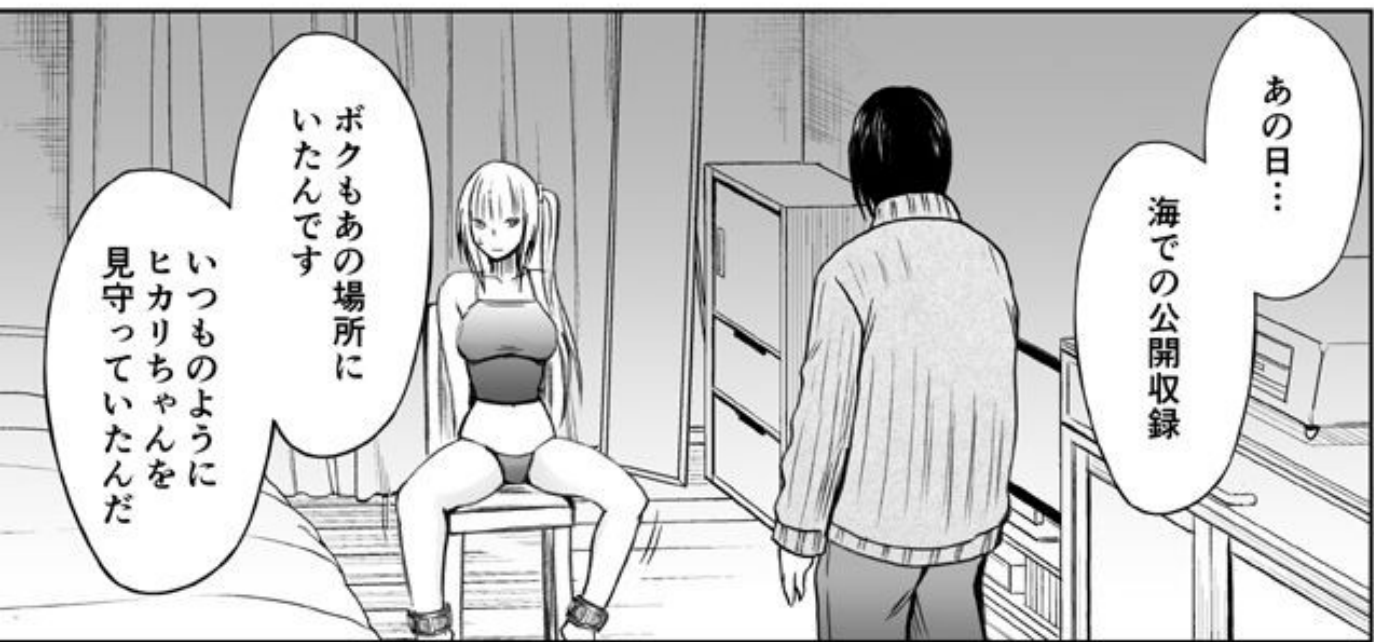
帰宅しようと
していた



第10話
異常な執着



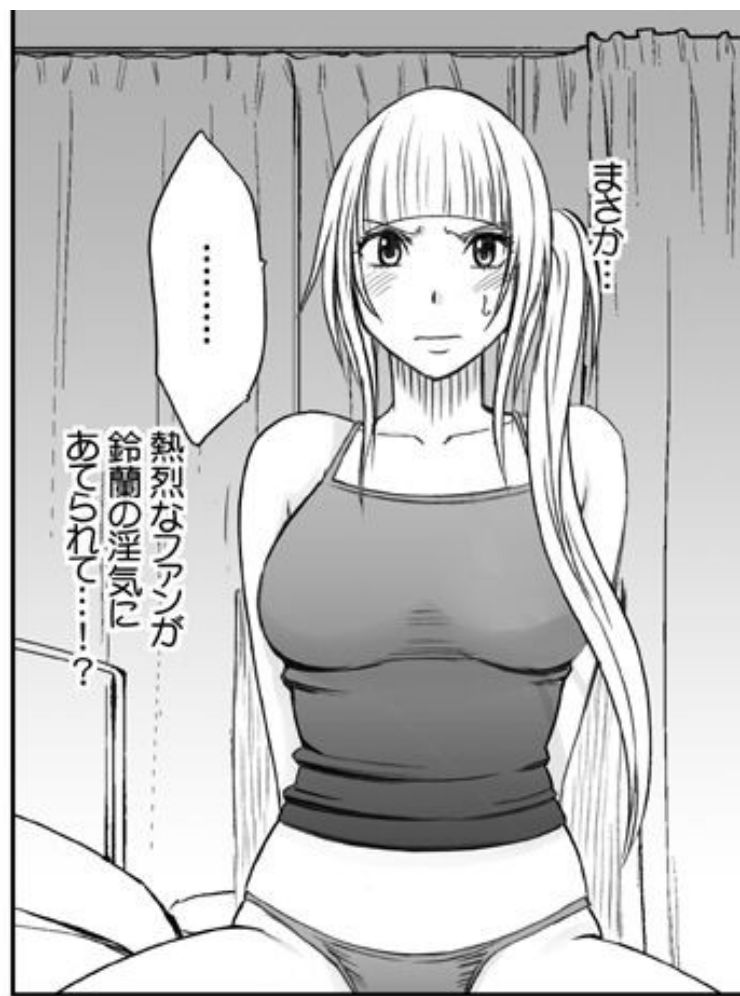






ヒカリちゃん
愛しています！

ボクといっしょに
なってください！



熱烈なファンが
鈴蘭の淫気に
あてられて……！？



とにかくまずは
この縄をほどいて！

何を……！



仕方ない……でも

時間ならいくらでも
あるんだ



こたえては
くれないんですね

ヒカリちゃんにはまだ
ボクのこの想いが
伝わってないんですね……

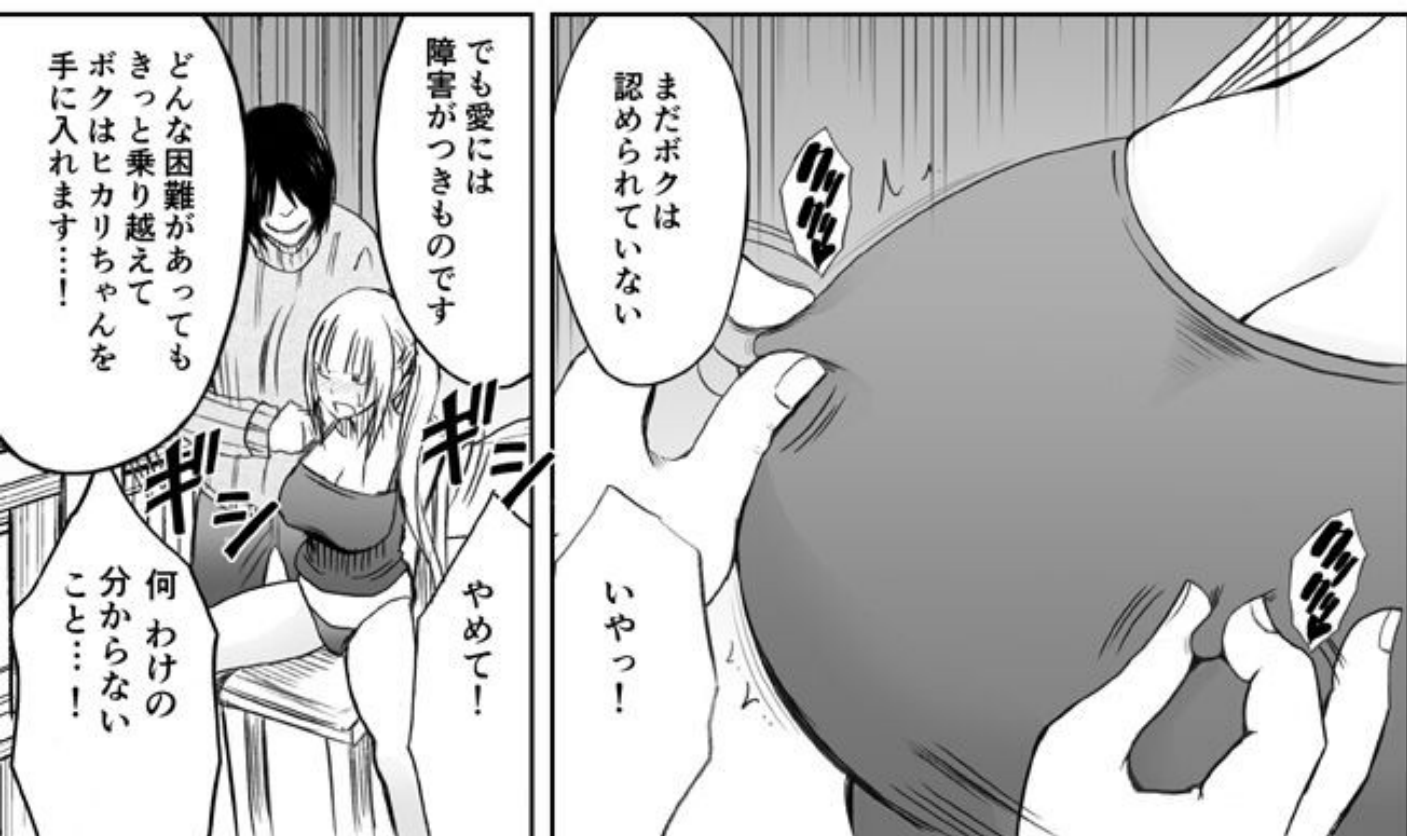


これからじっくり
伝えてあげますよ



ちよっ…!

何するの!



でも愛には
障害がつきものです

どんな困難があっても
きつと乗り越えて
ボクはヒカリちゃんを
手に入れます…!

まだボクは
認められていない

いやっ…!

やめて…!

何わけの
分らない
こと…!





これが…!
ヒカリちゃんの…

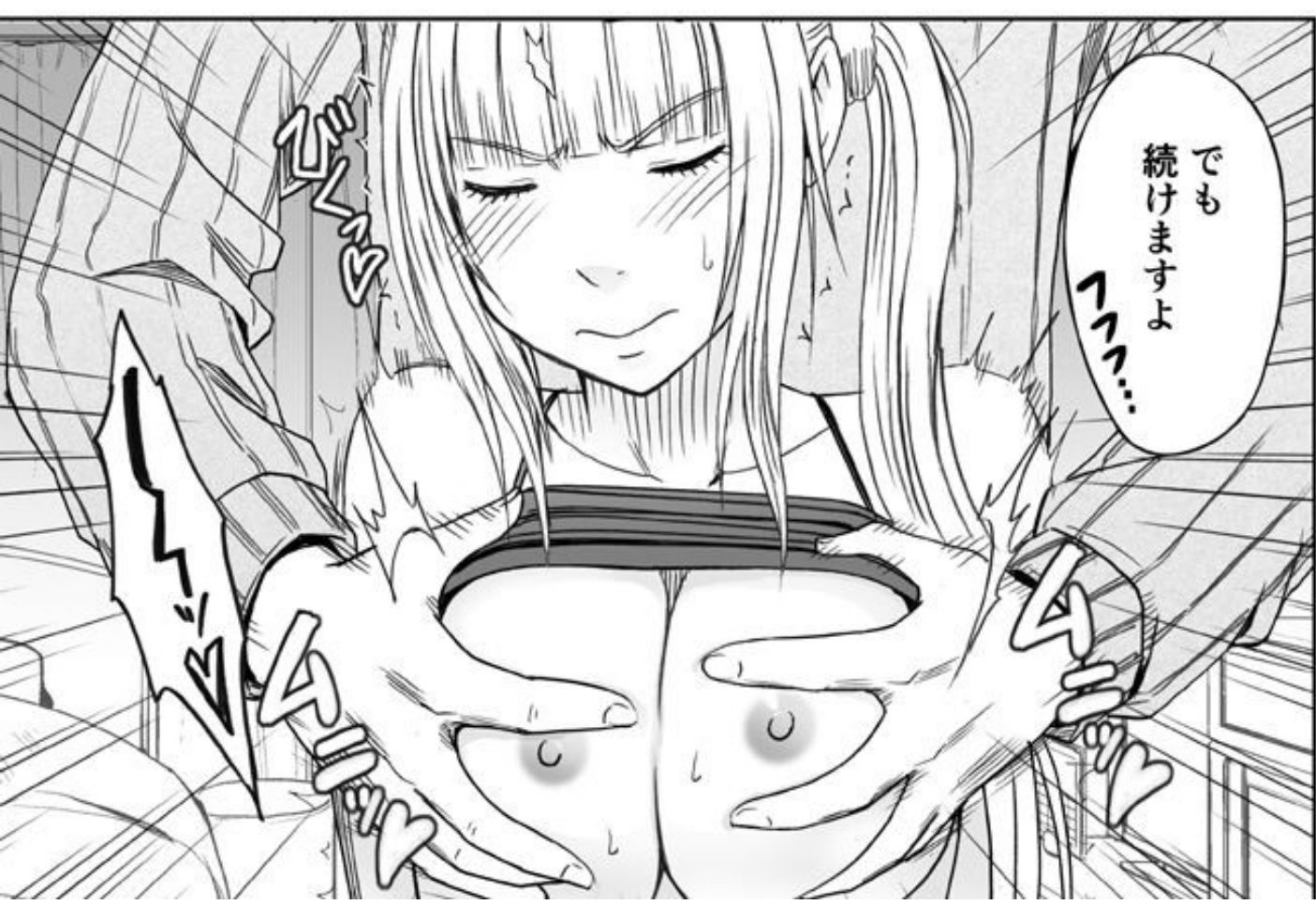
おお



フフフ
イヤですか?
恥ずかしいですか?
そりゃそうですね?

ヒカリちゃんは
処女で
男性とつきあったり
したこともないって
言っていましたもんね

やっ!
見ないで!
もう…やめてッ!
こんなの…!



でも
続けますよ
フフフ…

びんびん





今までのような
ゆきずりの男たちとは
わけが違うほどの欲望…
それが――

他人のエネルギーに敏感な
アナタの体と

私の淫気との
相乗効果で

数倍もの
性的刺激を
生み出してしまっている
みたいね

ヒカリ
ちゃん…

ヒカリ
ちゃん





このまま
ずーっと...

スツ...

じっくり可愛がって
あげますよ.....

ヤッ...



ヒカリちゃんがボクを
いつ受け容れてくれるのか
楽しみです

ズンズンズン

ズンズンズン

びんびん



私が

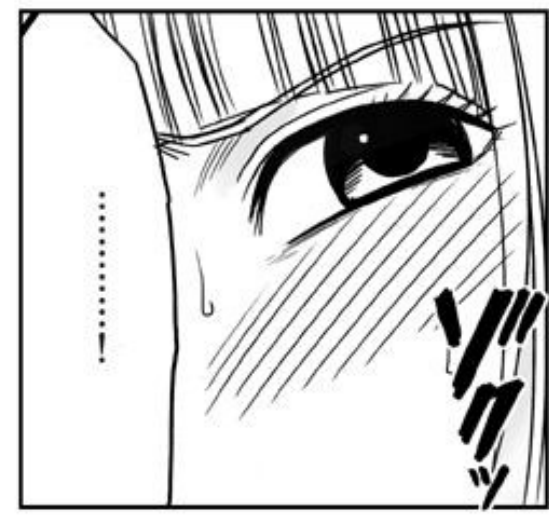
あなたを
受け容れる
.....?

はあ

はあ



早くヒカリちゃんの
中に入りたくて
うずうずしてるん
ですよ



.....!

ググツ



でも大丈夫です

怖がらなくて
いいですよ



そうですね
ヒカリちゃんが

ボクのを
受け容れてくれた瞬間

あ
あ

ボクたちは
ひとつになるんです

ほら
ボクのが
わかりますか？

ヒカリちゃんは
処女って
分かってますから

ボクは紳士です

ヒカリちゃんの
同意なく
無理矢理したりは
しませんよ

ちゃんと
ヒカリちゃんが
良いつて
言ってくれてから

ヒカリちゃんの
ほうから
欲しいって
言ってくれてから…





「お…ダメシ！」

「お…ダメシ！」





こんなので…
イクわけには…!!



ジジジ…

一回でも
イッちゃったら…

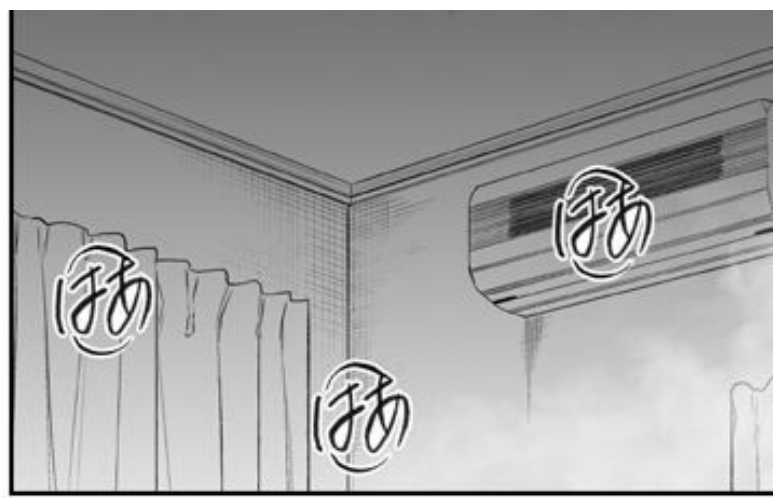
ズリ
ズリ

ククッ
クッ



イキました？

ん...？



ち...ちがッ！
イッてない！

あれ？認めたく
ないですか？
まあいいですよ

ヒカリちゃんは
恥ずかしがりや
ですもんね

もっともっと
恥ずかしさを
忘れるくらいまで

気持ちよくして
あげますよ



ダメッ！



やっ！

見させて
もらいますね



とりあえず
一番恥ずかしい
部分を



おお…
これが…

ヒカリちゃんの…!!



さっ…

ヤッ…

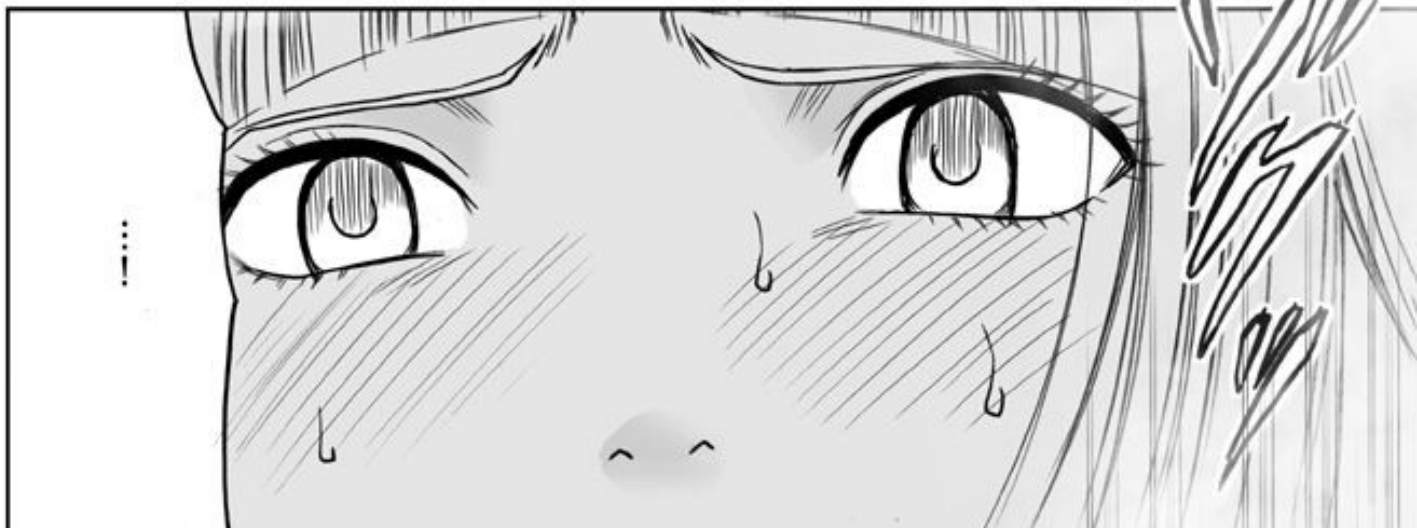
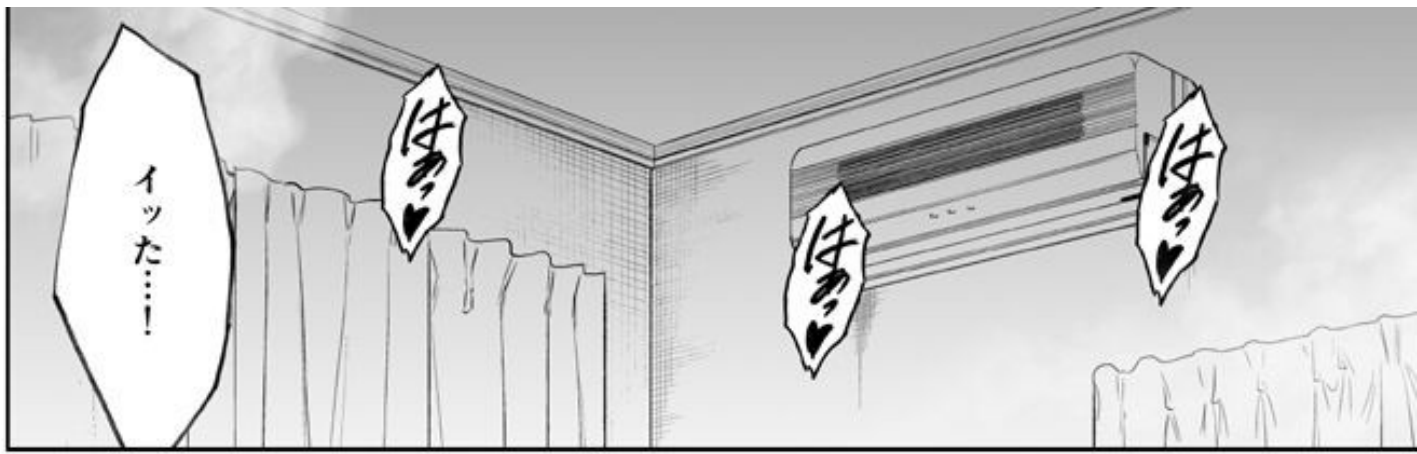
おっ…

さっ…

さっ…

さっ…







いっぱい
持ってきたんですよ

ヒカリちゃんと
イカせまくるために

ヒカリちゃんを
喜ばせるために



見てくださいよ
ヒカリちゃん

コレ…

スッ



ズッ
ズッ

これで
ヒカリちゃんのこと

いっぱい愛して
あげますよ



念のため
携帯電話は
バッテリーを
抜いておきましたし

二人っきりで
愛し合いましたよ

いやっ!

しばらくは
大きな声も
出せないように
口枷をつけて
おきましたよね

んぐっ!



やばい!!
この人はやばい!!

ダメだ...!!



私を犯すための
準備を
してきてるなんて

こんなに
周到に

ズンズン

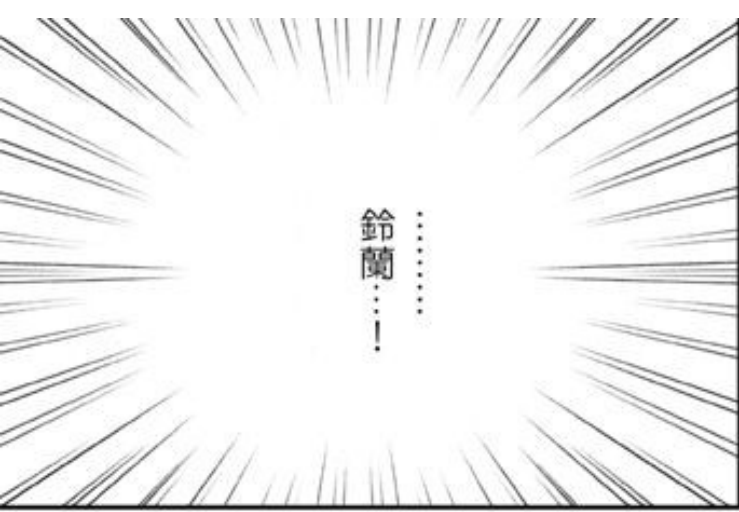
この人は異常だ!

ブルブル

ブルブル

ズンズン

ズンズン



……
鈴蘭……！



ダメだ……！
師匠にもらった
数珠も
外されてるし
私一人のカじゃ
もう
逃げられない！



……
ん……
そうねえ……
前回は
クスリを使ってくる
卑怯なヤツだったから
特別に
助けてあげたけど



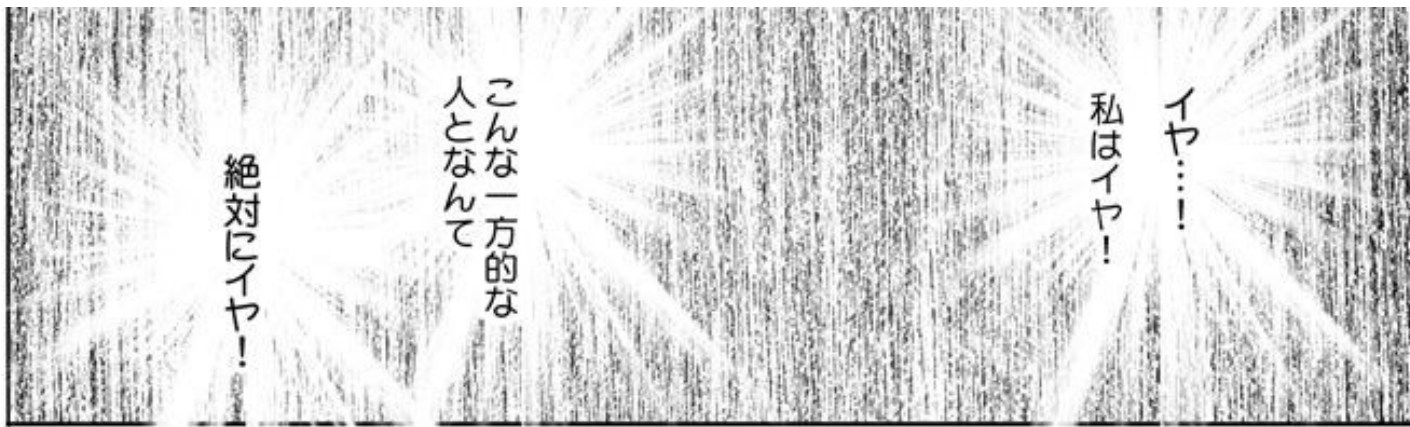
お願い鈴蘭！
また……前みたい……！
ズル
ズル



……！！
そんな……！！



今回の相手は
あなたのこと
こんなに愛してくれてる
みたいだし
いいんじゃない？
この人だったら
究極の快感まで
導いてくれるかもよ？



イヤ……!

私はイヤ!

こんな一方的な人となんて

絶対にイヤ!



私は諦めない!

絶対に
最後まで

抗って
みたらー!

びびび

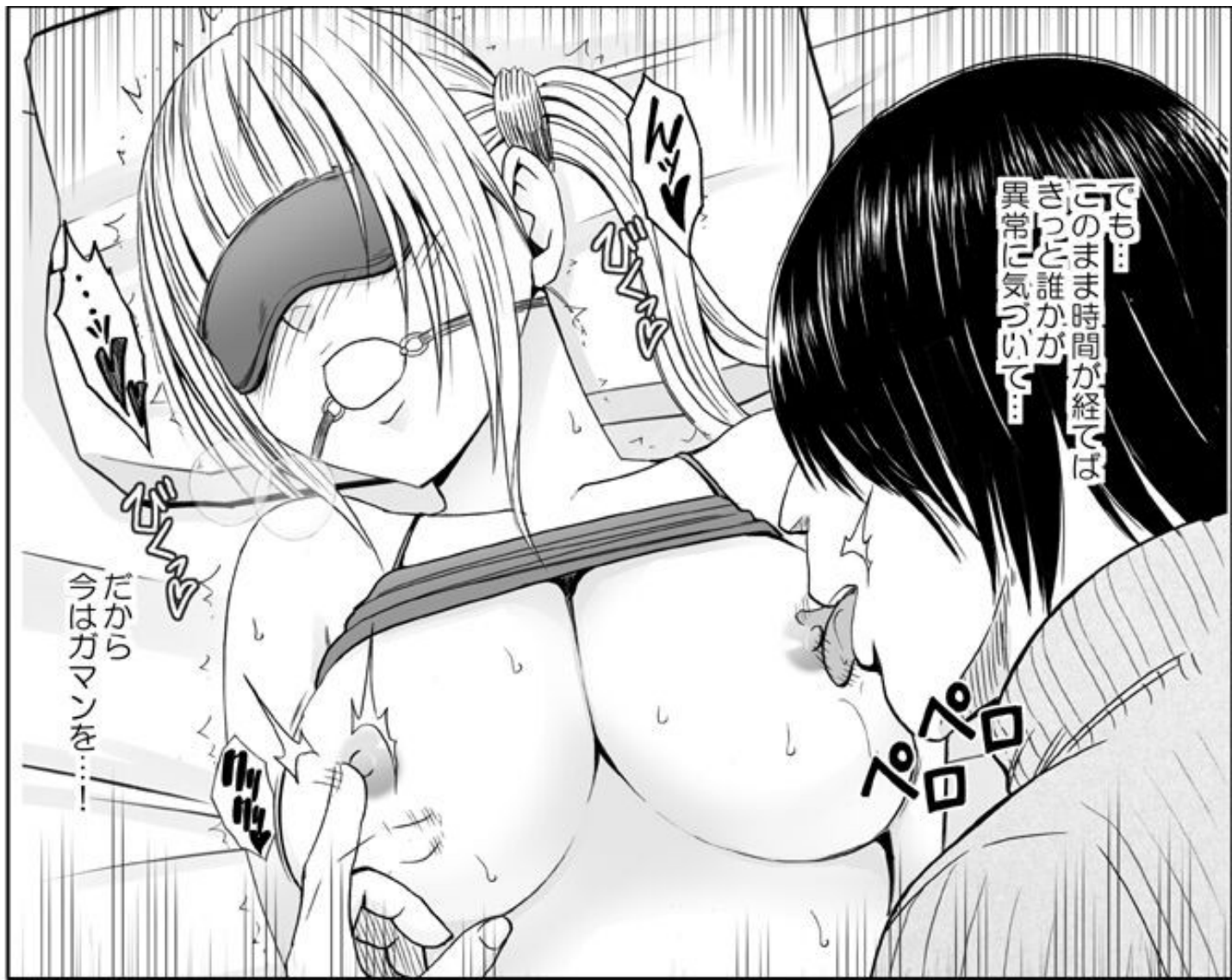
ズル

ズル
ズル

ズル

敏感アイドルと
快感ゴースト





ちゃーんと
ボクが全部

予定のキャンセルの
メールを
送っておきました
から♪

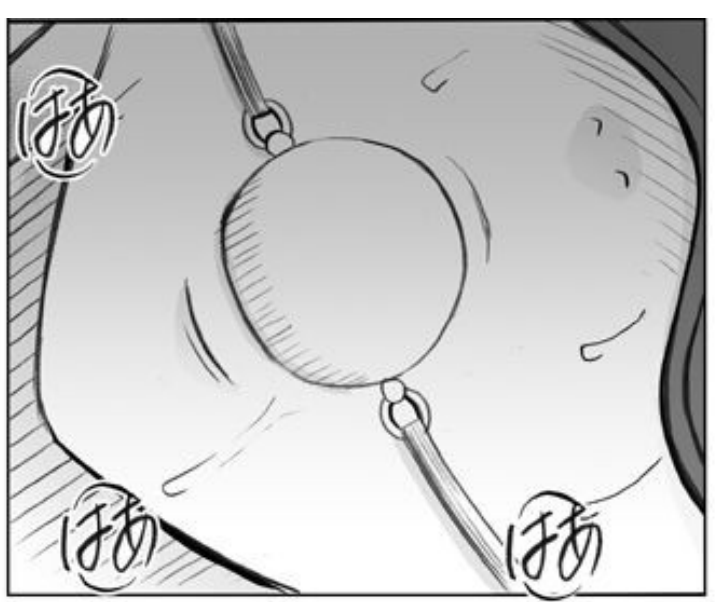
.....!

それに
もう携帯の電池は
抜いたし
GPSも切ったし

念には念を
入れて...ね

ボクとヒカリちゃんの
愛の営みは
誰にもジャマを
させませんからね





とりあえず
イカせまくって

このままじゃ
本当に何も…!

カラダだけでも
ボクのことを
認めさせますね

まずい
この人

ここまで周到
だったなんて…!

ギシ

ギシ



このままじゃ
私…!

この人に…!



第10話
どうして求めるの？



もう…
5時間以上…!

びびび

びびび

イカされっぱなし
で…!

もう…ダメ…!
限界!

どんだん
乳首も敏感に
なってきましたね

びびび

イカされすぎて
カラダがバカみたい
になってる…!

びびび

びびび

全然ガマンできない!

指を適当に
動かされるだけで

カラダが勝手に
たかぶって……!

……ふんふんふん……
ふん

あめっ!

また……っ!



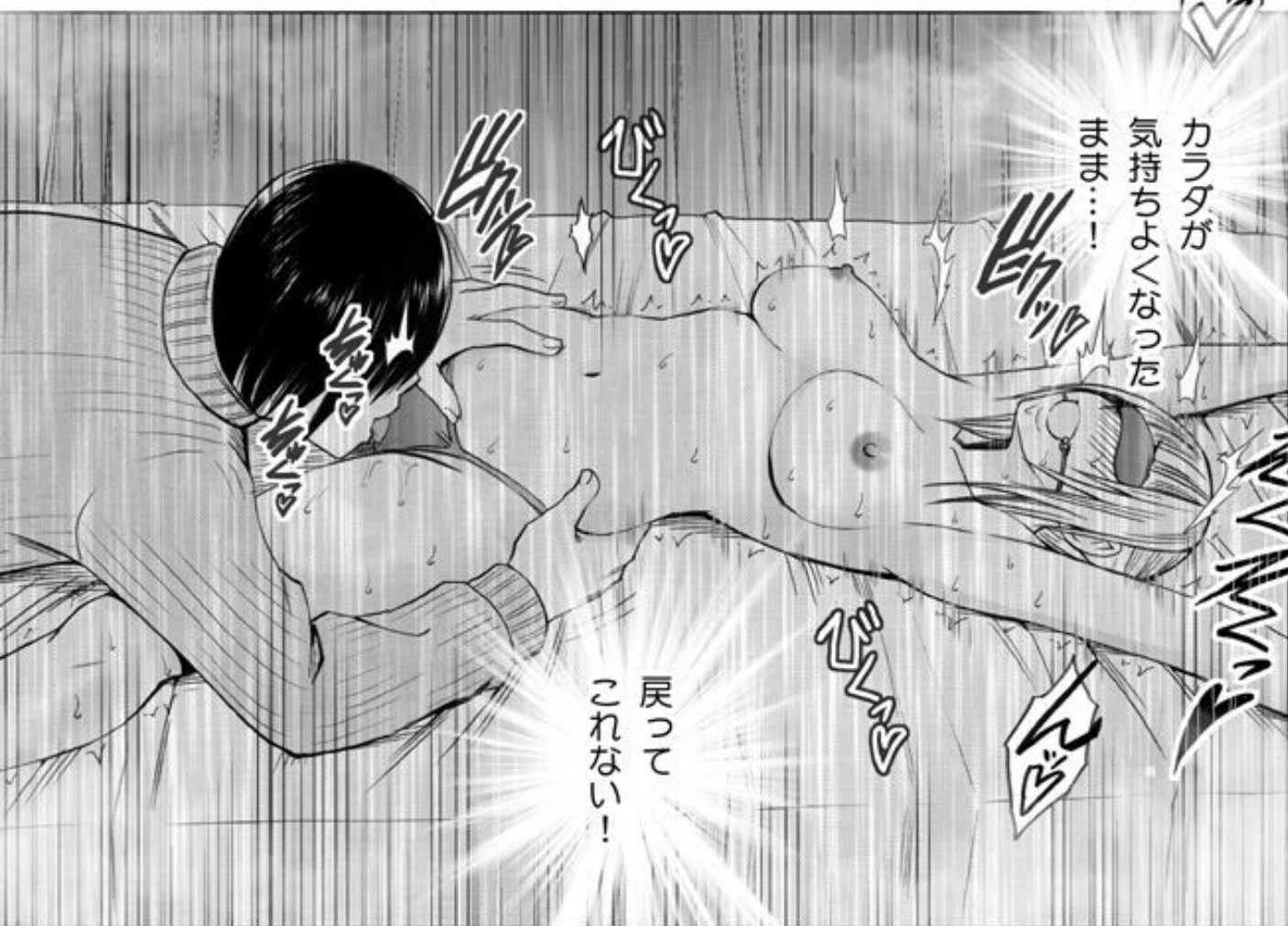


クウ……クウ……クウ……



ダメーダメッ！

やっ！
ちよっと待って！



カラダが
気持ちよくなった
まま…！

戻って
これない！



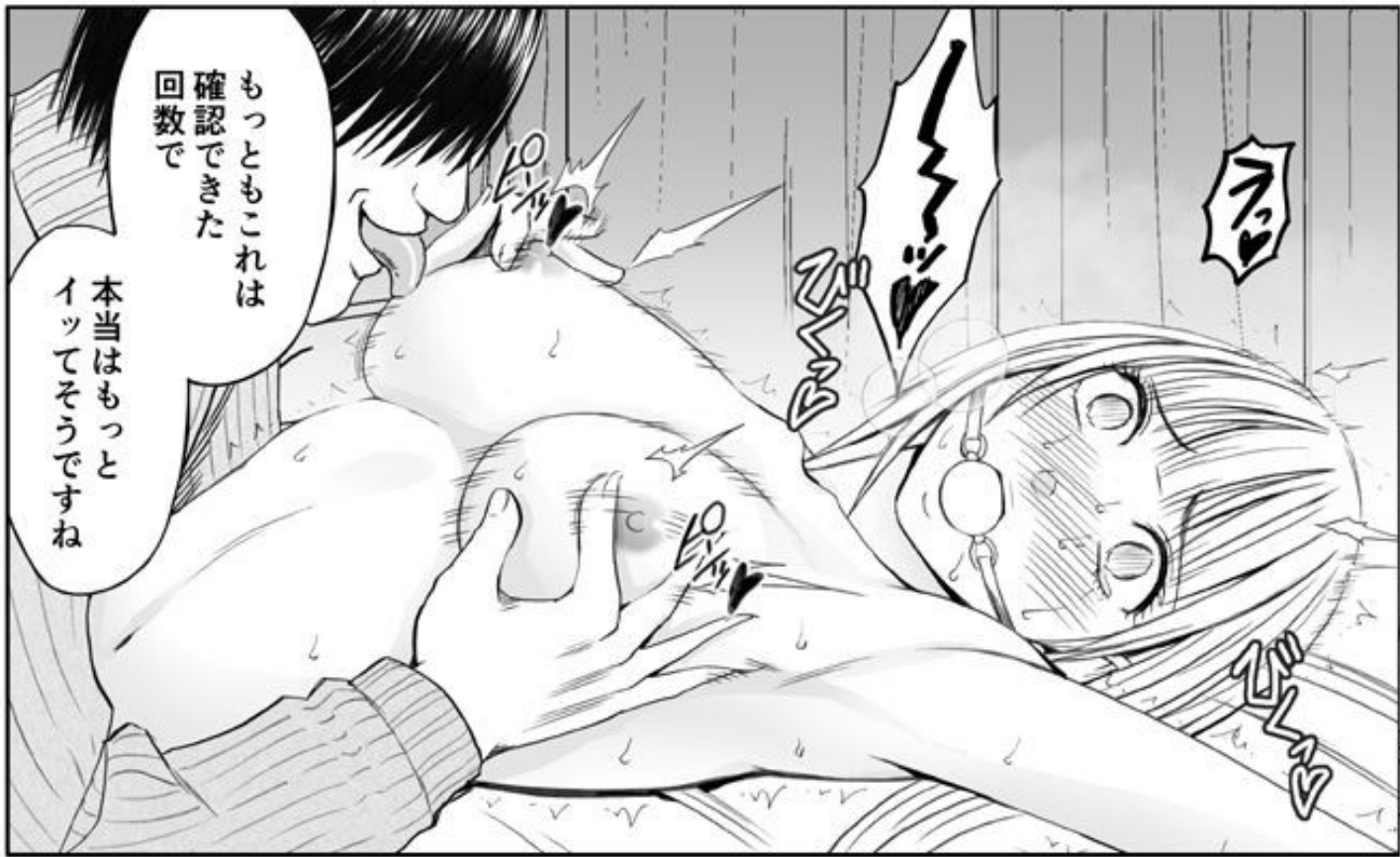
何回
イカされるの…？



本気でダメッ…やっ！











何するの!?

おっ...!

おっ...!

おっ...!



フッフ

これで
しばらく
このままにしようか

やっ!

うそっ……!



どうですか?

敏感な
ヒカリちゃんの
ことだから

すっごく
イキそうになると思うけど



微弱で単調な振動だから
イクことは
できないでしょ?

このまま
弱い刺激を
当て続けて

イカせずに
しばらく放置
します





アハハ

もうイキそうに
なってる

もっと振動を
弱くしないと
ダメですか？
フフフ...



でもダメですよ
イカせません

イキたくなったら
ちゃんと
ボクにお願いして
くださいね



やっぱり
敏感ですねえ
ヒカリちゃんは



そのときは
ボクと一緒に
なるときですからね

ダメ……！
イキたいけど

認めたら
終わっちゃう！

ガマン
しないよ……！

今までも何度か
襲われて
無理矢理されて
イカされるのも
すっごく
屈辱だったけど

イカされずに
寸止めし続けられるのも

こんなに
つらいなんて……！





でも……
少しでも癒へ……

癒へ癒へ

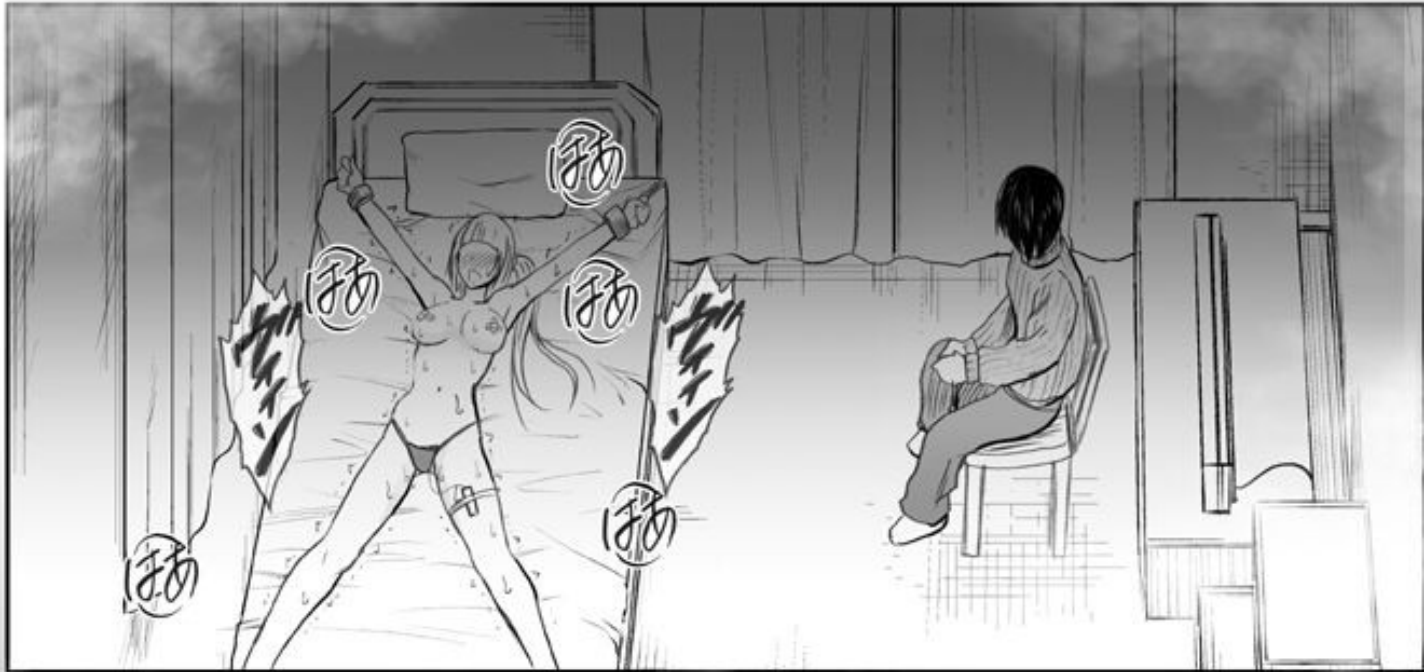


いつかチャンスが……!



心まで屈するのは

絶対にイヤ……!




下下下下下...

10数時間
攻め続けられ
疲れきった私は

いつのまにか意識を
失っていた

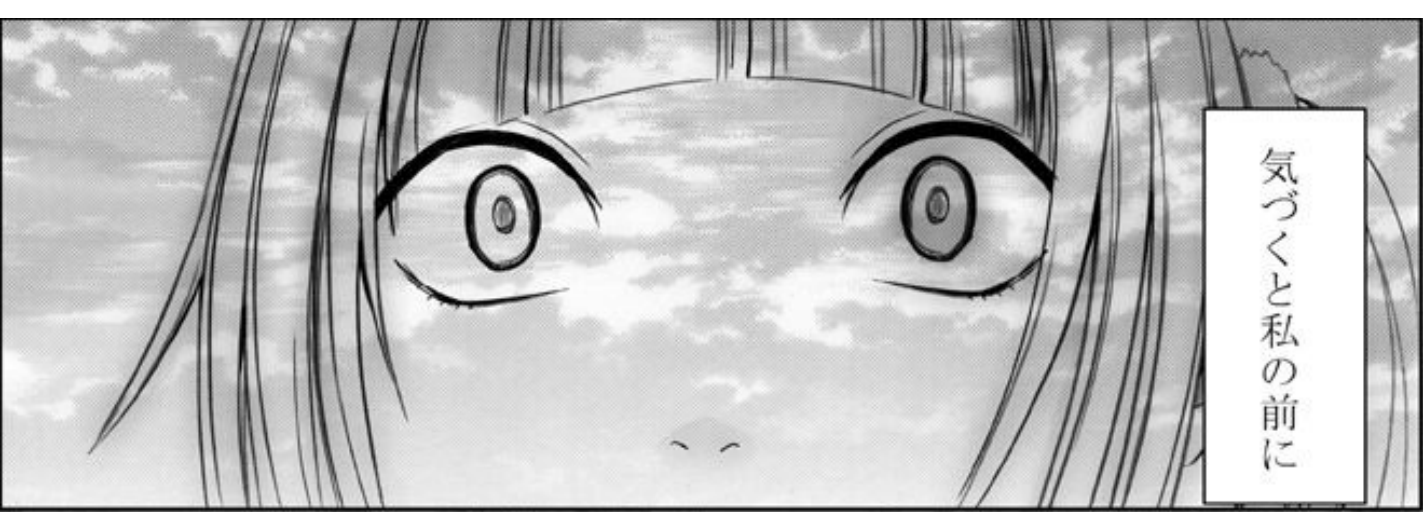




自分がどろどろの
液体に
なったかのような
深い眠り…

極度の疲労で
私の意識は

今までにないほどの
深みに
落ちたのだろうか



気づくと私の前に



見知らぬ風景が…



知らない風景…



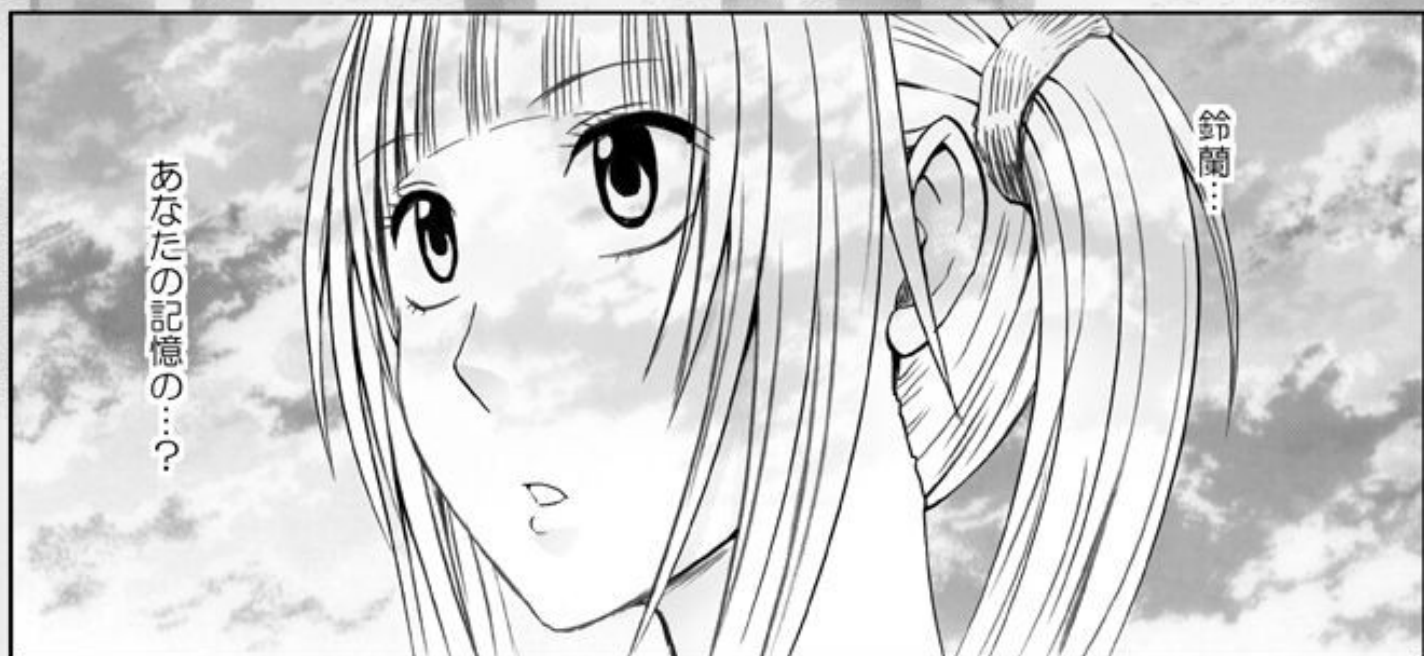
…

これは何…
夢の中…?



これは…

平安の…?



鈴蘭…

あなたの記憶の…?



フフフ...

せつかく
究極の快感に
近づけると思ったのに

ズウウウウウ



.....



結局
ガマンし続けて
気を失うなんてね

あなたらしいわね



ダメなの？

あなたに
愛してくれてるのに？



それにしても…
あの男の想い……

執着は
本物だったわね



想い……って
いうには

一方的過ぎるかな…



うん…

確かに今まで
私を襲ってきた人とは
ちよっと違うとは思
うけど



ふふふ…
…そうね

でも人の想いなんて
本来
一方的なものよ

どれだけ
通じ合っても
結局は違う人間だもの



ねえ鈴蘭……

そろそろ
教えてくなくても
いいんじゃない？



どうして
あなたは
そんなにも

究極の快感
なんてものを
求めるの？



敏感アイドルと
快感ゴースト



いいわ

そろそろ
あなたとも
長い付き合いになりまし

ちょうどいい機会だし



話してあげる

私のこと……

キアア...

第12話

快感は
さまよい続けて…





私の母は
薬師だったの



薬師としては
優秀な人物で

女でひとつで私を
育ててくれたの

ただ
夫がいらないというよりは

特定の夫を持たなかった
だけって言ったほうが
正しいかしらね



夜の営みの薬――

つまり媚薬ね



怪我や病気のために
使う薬も扱っていたけど

主な収入は



私は母が嫌いだったわ



『究極の快楽を目指す』

母の口癖だったわね



母は自分の身体を
実験台のように使いながら
薬を調合して

毎晩のように色んな男と
寝ていたわ



毎晩違う男相手に
身体を叩いて
うめき声をあげる…

ああは
なりたくない
何度も思ったわ



そんな信頼できそうな
人たちが
母親のもとを訪れて

村の権力者や
品行方正な愛妻家
礼儀正しい役人――



獣のようになって
母親を犯す

行為に及ぶ



嫌悪で
吐き気を
もよおしそうだった



そして次の日

何でもない顔をして
私に挨拶して
いい大人を演じる

に
に
に



それは清兵衛――

反物屋の息子で
私の幼馴染

でも
そんな陰惨な
境遇にいた私にも

笑顔になれろ
ときがあった

彼はいつも私のことを励まし
笑わせてくれた

彼は私の母親が
していることを知っても
私自身を軽蔑することなく

私が落ち込んでいるときも
ただ優しく抱きしめてくれた

当時の私の想いは
純真そのもので

清兵衛と結婚し
清兵衛に一生
添い遂げたいと思っていたわ

ただ一人を愛して
ただ一人を愛して

母のように
複数の男を相手に
春をひさぐようなことは
絶対にしないと心に誓っていた

清兵衛だけが
清兵衛だけが
私の心のよりどころだった

でもね

悲劇は突然
やってきたわ



朝起きると
私の身体は
全く動かなか
った



動けないで
いる私の
目の前に
現れたの
は

見知らぬ
身なりの
良い男



以前にも
経験した
ことのある
全身の痺れ

母親の調
合した薬
だと
すぐにわ
かった



……!
!?

身勝手に
犯した

そいつは私を
裸に剥き

処女だった私が
挿入に抵抗を
感じなくなるほど

何度も何度も――



恨むなら
自分の母親を恨め

そう
言い残して
去っていった...



丸一日犯され続けて
やっと解放された



すべて
母の差し金だった



母は清兵衛と
私の関係に
なかく否定的なわけでは
なかった

ただ金と引き換えに
娘の処女をくれという
貴族の男との取引に
忘じただけ

母にとって私の処女は
その程度のことだったの

でもね…
売られたこと自体は
さほど気にならなかったわ

母が
そういう人物
だっていうことは
私にはわかっていた

ただ——
驚いていたの

犯されながら
望まない性交を強要され
処女を散らされながらも

快楽を得てしまった
自分自身に



母は淫売だ
それは仕方ない
諦めている


けれど
自分までもが
淫売だとは思
っていなかった

幼い頃から愛する人がいて
生涯をその男ひとりに
捧げると誓っていたのに

蓋をあけてみれば
自分は犯されながら
「もっと」と
相手の精を乞うような


母とうりふたつの
女だった






結局
自分は母と
同じ種類の人間——

ひきこもって
誰にも会わずに
自らを責め続け



最後には諦めた

そして認めた



自分も淫売

情欲に溺れ
快楽をむさぼる血が
自分にも流れていろ

私は
生まれ育った場所を
去ったわ

清兵衛とも
もう二度と会うことは
なかったし

二人の生きる世界は
もともと別だったのよ

会いたいとも
思わなかったわ

ただ幼い日々
偶然が重なって
近くにいたというだけ

毎晩違う男と
寝ることに
悦びと刺激を感じた

新たな快楽に
触れるため
何でもやった

年齢三十で
流行の病で
死ぬまで…

分かった？
ヒカリ

.....

快樂を得る道を
追求することだけが
私の生き甲斐なの

私が求めるのは
快樂そのもの.....

ただそれだけよ

他にはもう

何もいらないの



分かった気がする……
鈴蘭は……

さっか……



もしあの時……

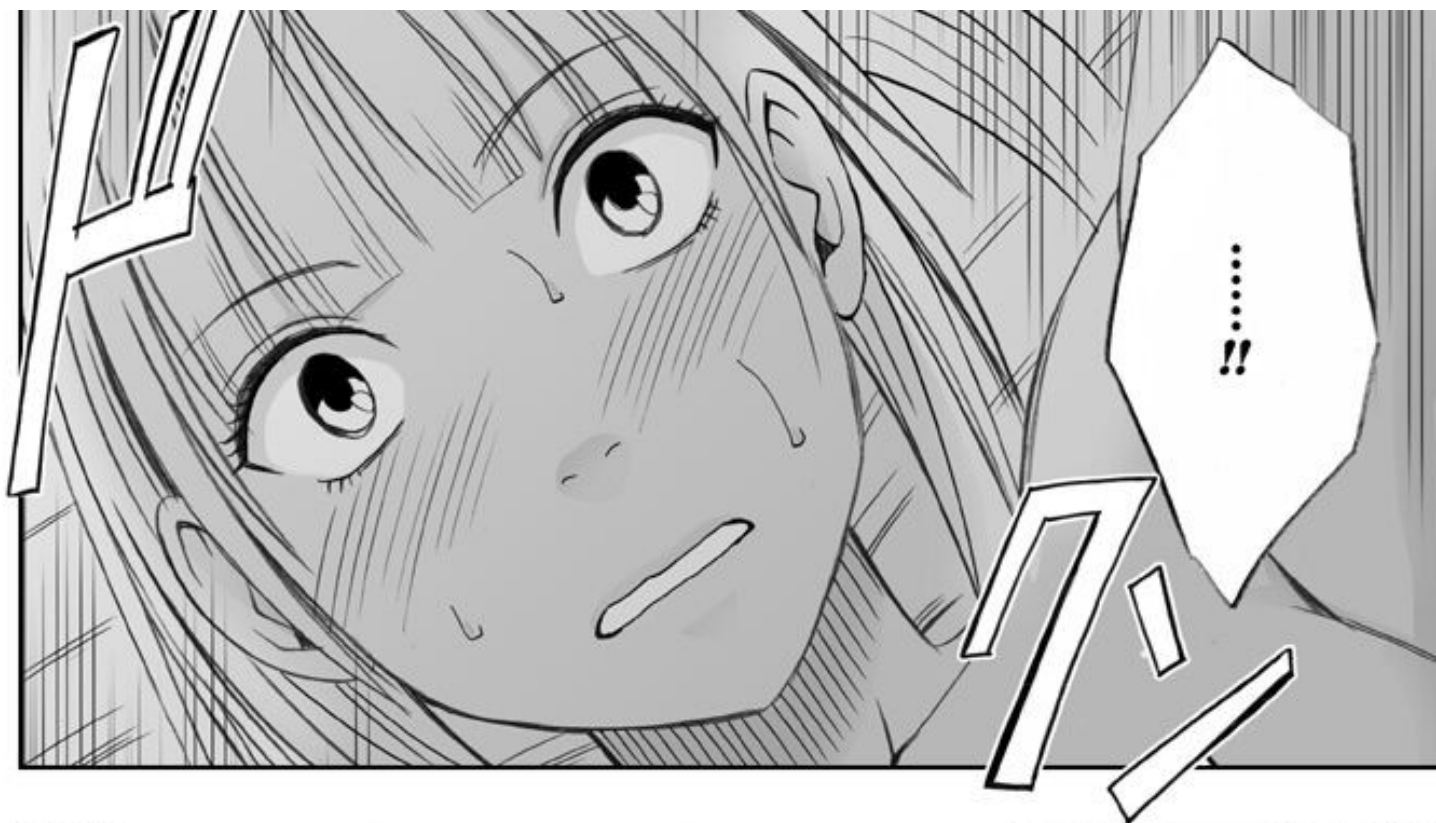
一番好きな人に……



今でも
一番好きな人に……

き……





……!!



ごめんね
やっぱり……!
ガマンできない!

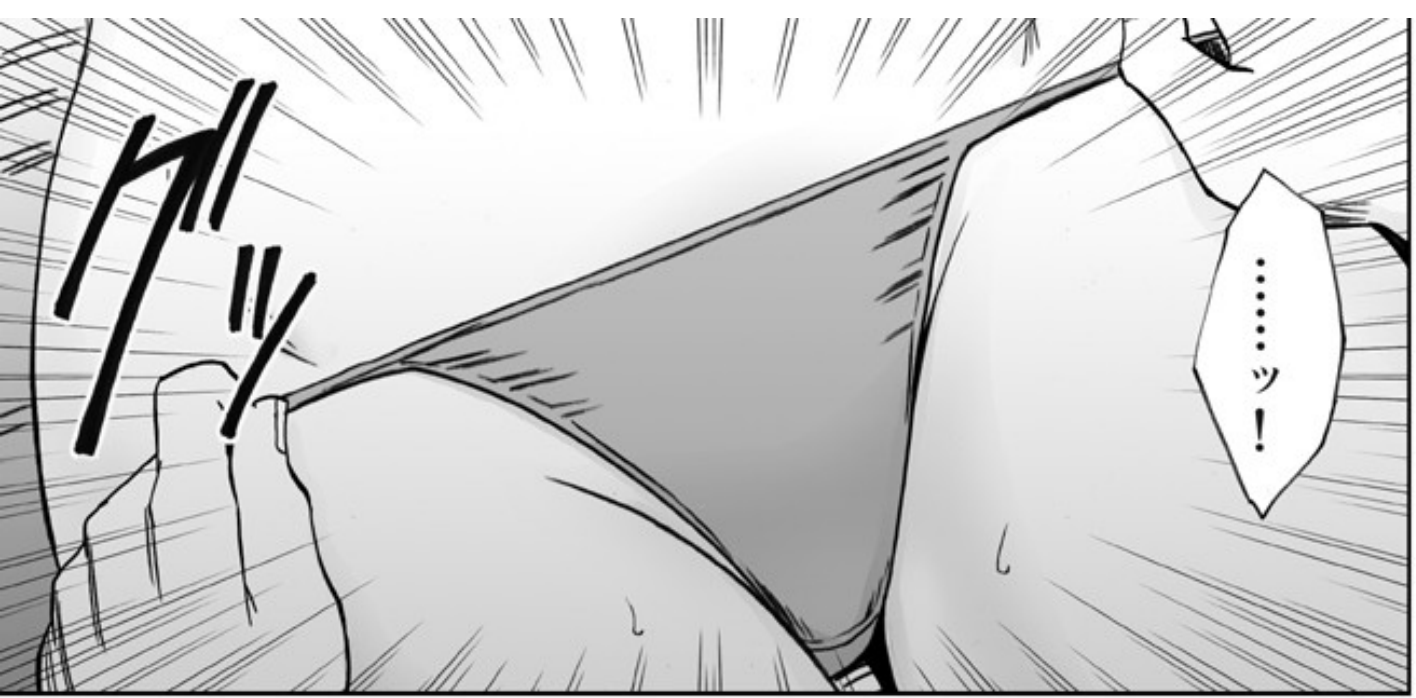
もう待てない!

もうガマンできないよ
ヒカリちゃん!



ボクと……

ボクと
ひとつになろう……!



……ッ！



いやっ！
待って！

ダメ……！

犯される……！

私も……！

やめてッ！



鈴蘭みたい……！

いやあ
ああッ！







う...
う...

さん...



ありがとうございます...
師匠...!

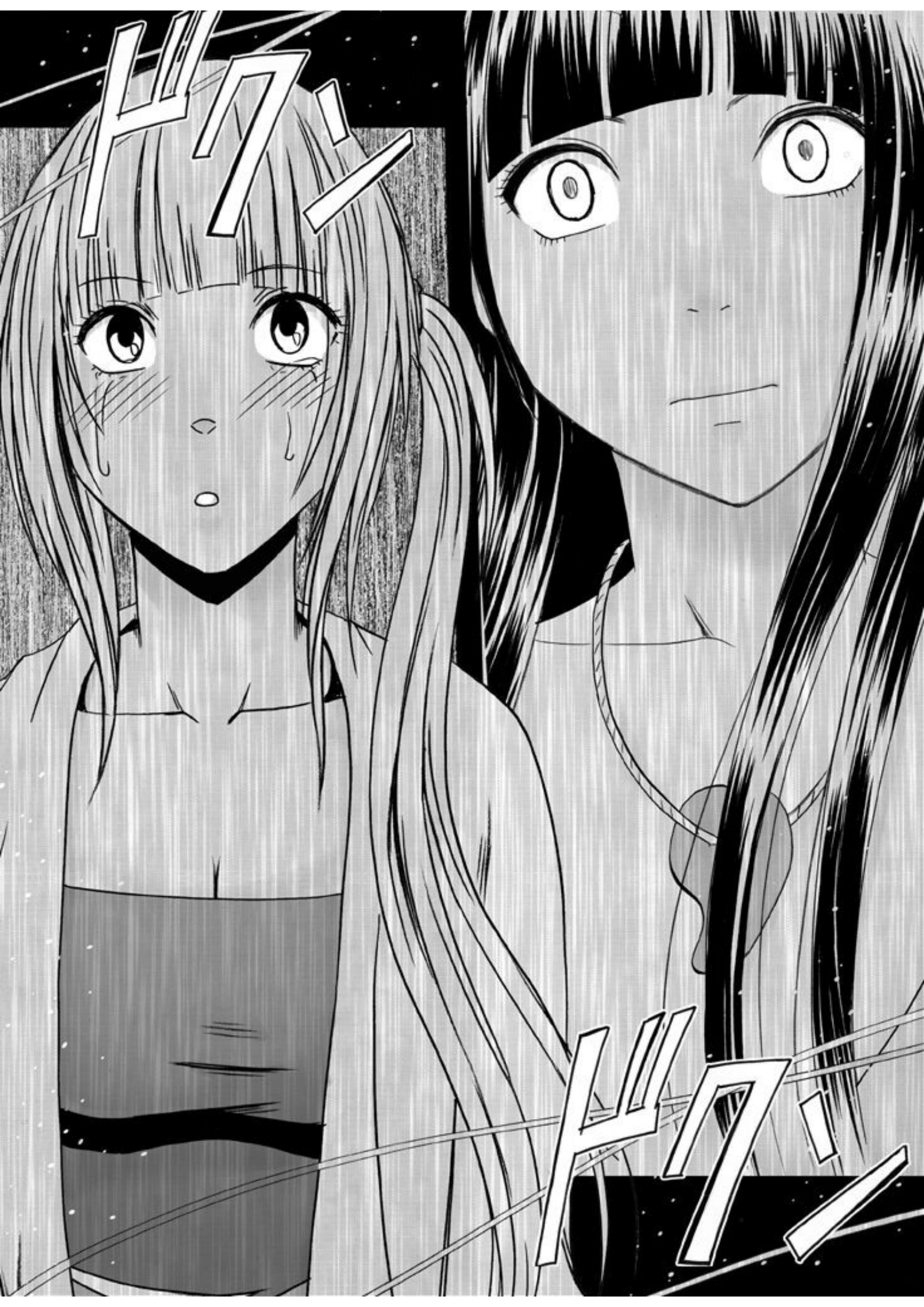
師匠...!

ん
ん









その時の
私は

長時間の拘禁から
解放された
反動からだろうか

それとも

鈴蘭の心に
触れすぎて
気持ちが高揚してた
からだろうか

昂揚して気持ちが高
重なってしまったからの
だろうか

理由は分からない
けども

ここで
言わなくちや
いけないと

師匠……!

私……


何かに
突き動かされる
かのように

私……

師匠のことが
好きです……!

だから私……

師匠に
抱いて
もらいたい
です……!



ボクも

ヒカリちゃんのこと
好きやで…

ただ
素直に

自分でも驚くほど
素直に

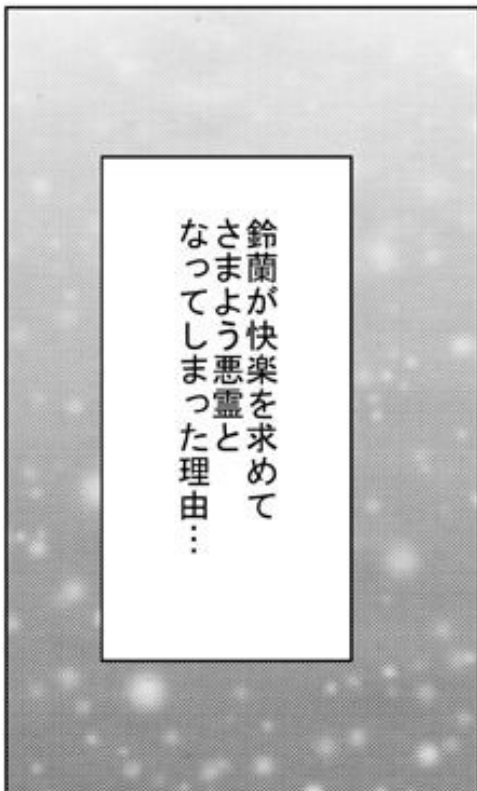
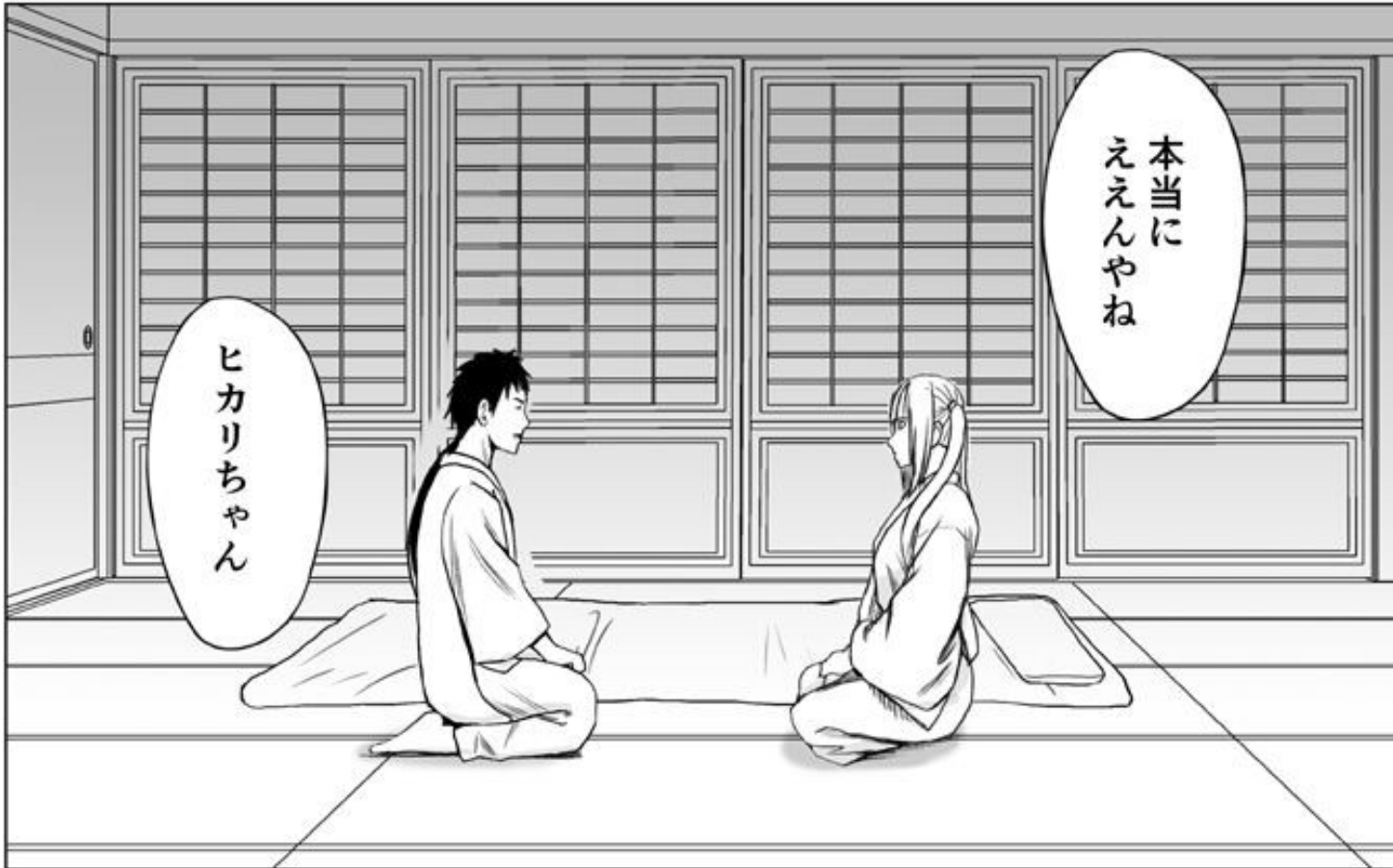
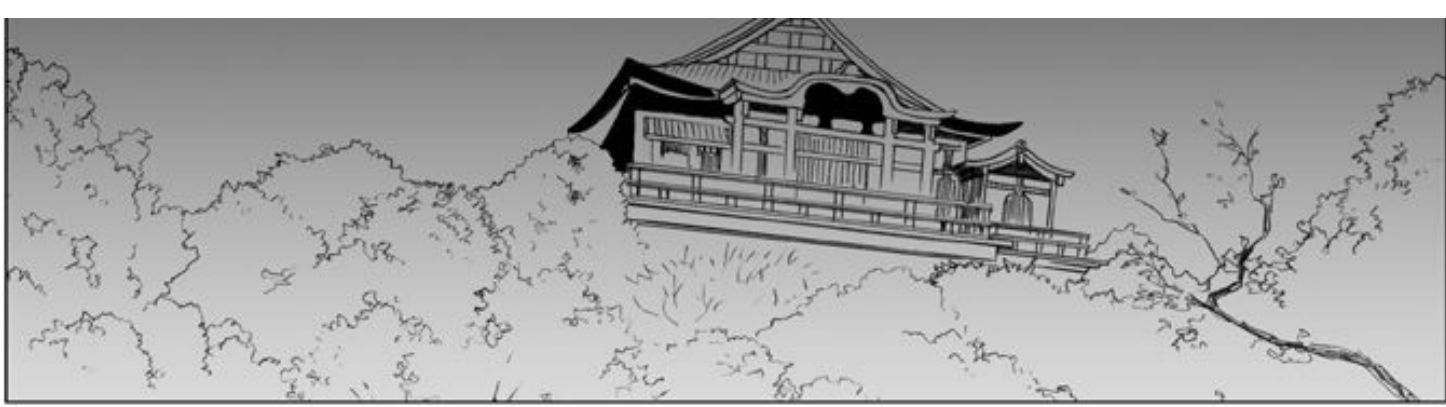
思いを告げた

敏感アイドルと
快感ゴースト

最終話

究極の快感







それはきっと

一番大好きな人と
交われなかった後悔が
あるから



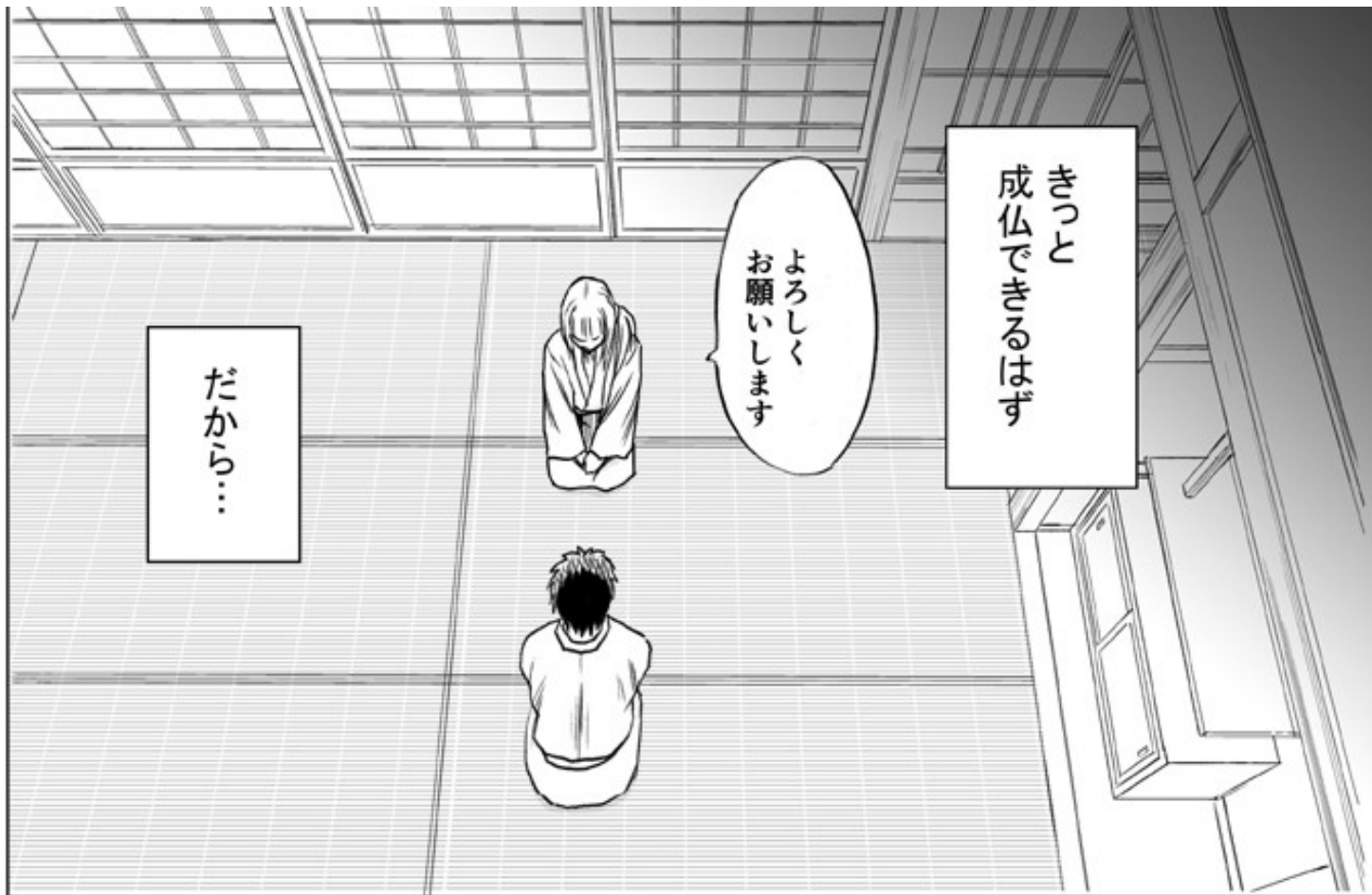
本当に愛する人に
はじめてを捧げて

心の奥底から
喜べるような
行為ができれば



私はそう
思ってる

だから



きっと
成仏できるはず

よろしく
お願いします

だから...



は...はっ!

えっと...
ヒカリちゃん
ひとつ
言っておきたい
ことがあるん
やけど...

ドキッ



.....



.....
!?



鈴蘭を成仏
させたいから
僕と交わると
いうんなら

残念やけど
お断りするよ



僕は

ヒカリちゃんのことを
好きやから

アッ...



優しい
ヒカリちゃんのことを
好きやから

誰よりも
人のころや
人の痛みを
知ってる

.....



ただ純粹に
抱きたいと思う

ぎゅ...

だから
抱きたいと思う



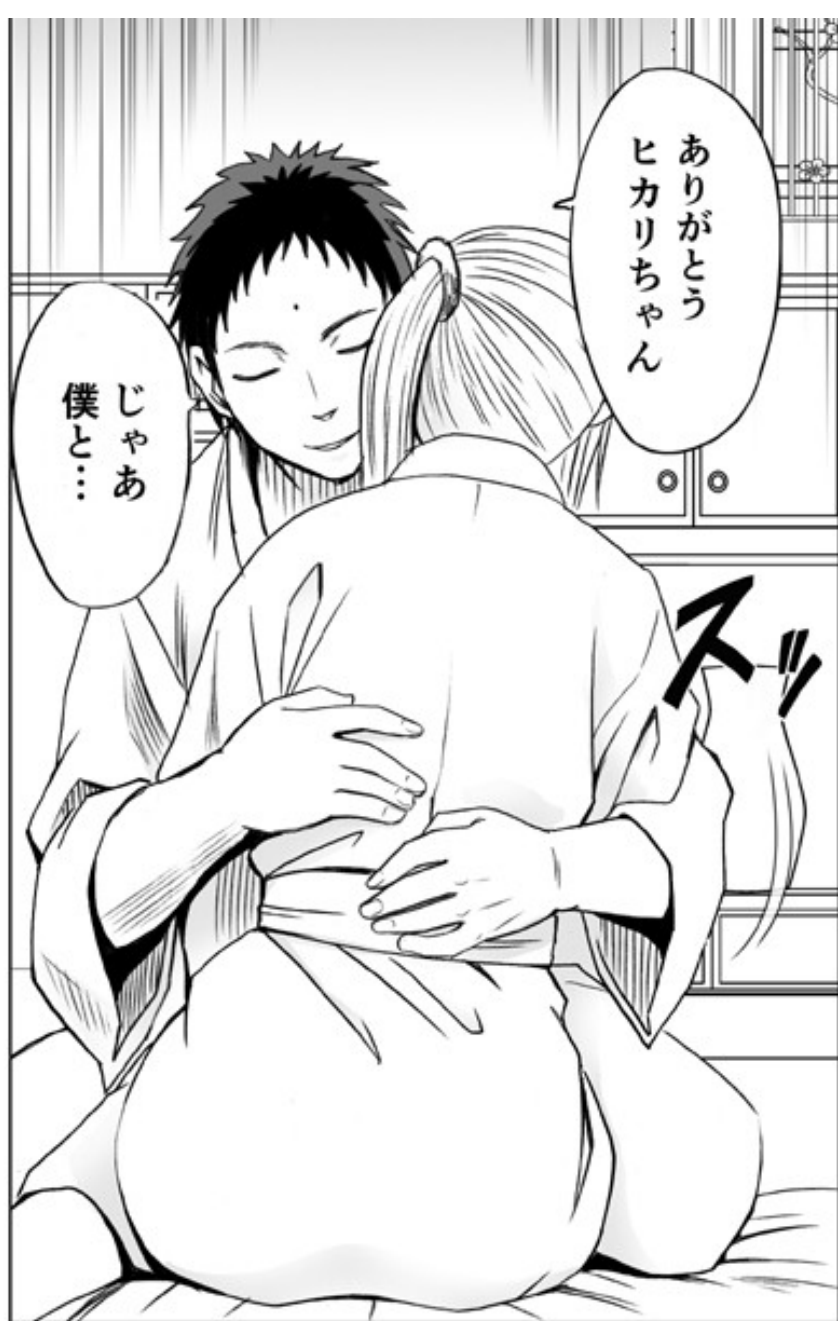
.....

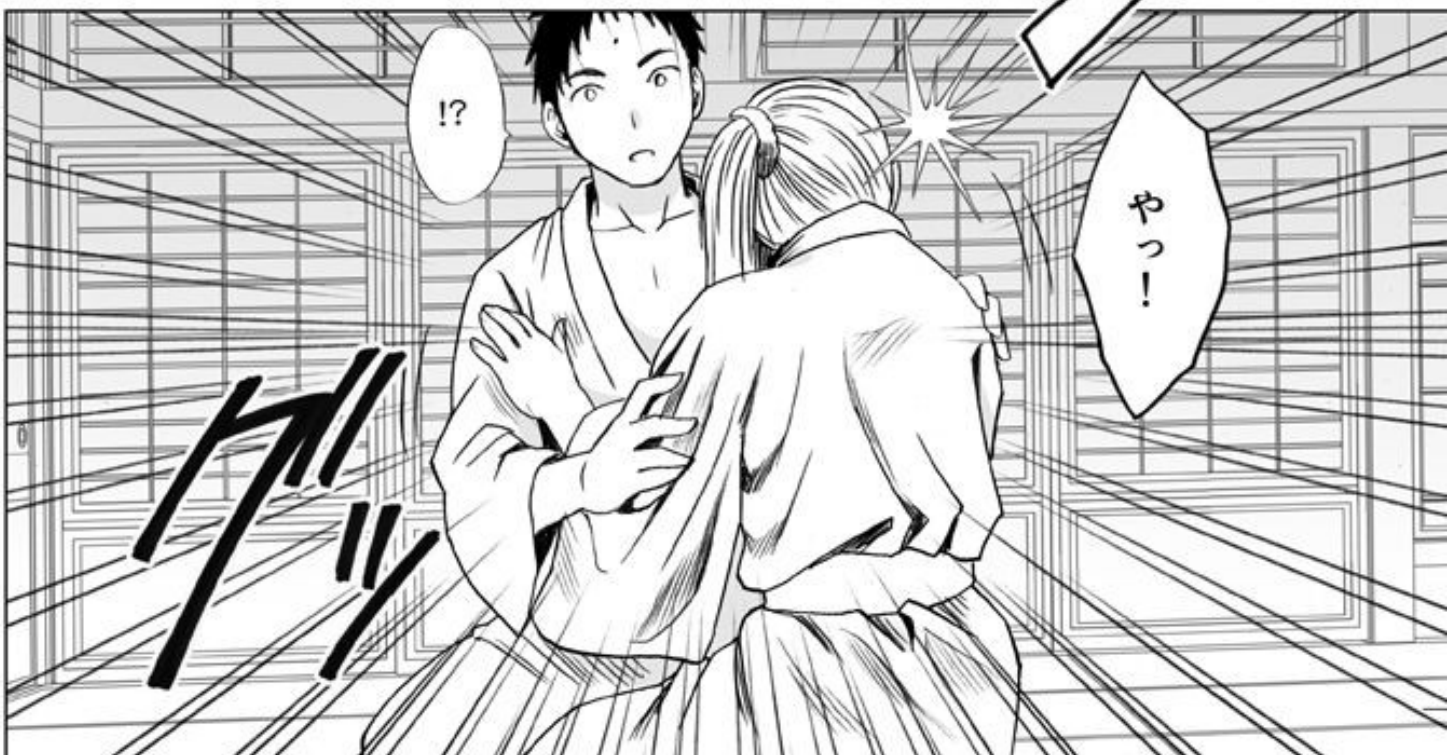


だから...
師匠と
愛しあいたい
です

私も
師匠のことが
大好きです

はい...
私もです







僕が
今までのこと
忘れるくらい

気持ちよくして
あげるから





師匠…

…ッ!



これが…

おめ…



心ゆ...

激しく鋭い刺激
だけじゃない

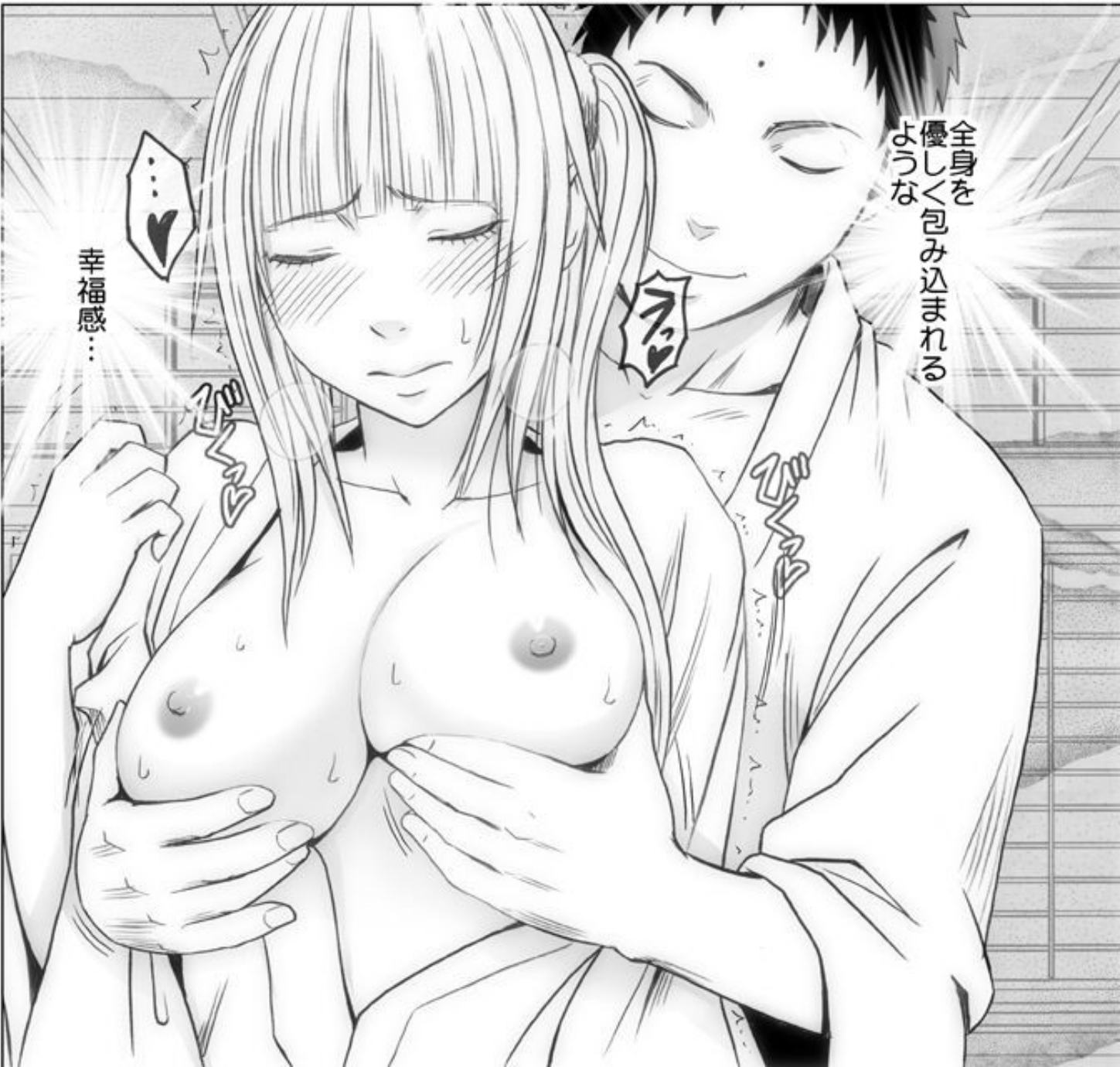


今まで受けてきた
快感とは違う...

びんびん♡

びんびん♡

ん♡



全身を
優しく包み込まれる
ような

幸福感...

♡

びんびん♡

ん♡

びんびん♡





ああ…私…

…うさぎちゃん

ん
ん

ん
ん

ん

ん
ん

ん


ん

ん



愛する人と

ひとつに
なれた



そのとき私が
感じていた快樂は

鈴蘭の影響に
よるものではなかった

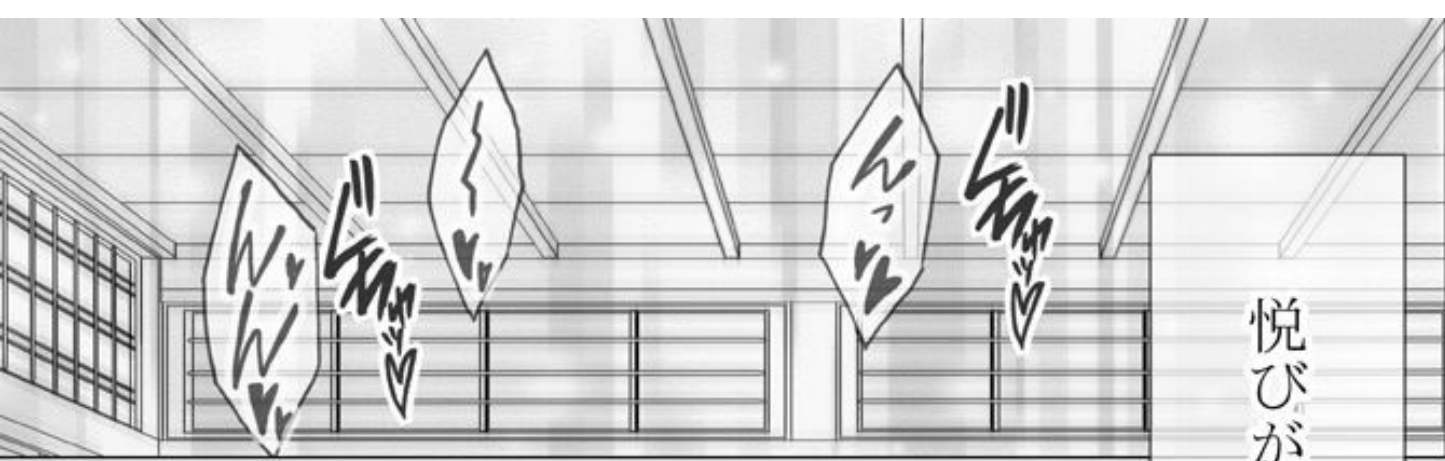
鈴蘭の
どこか暗く罪悪感にまみれた
背徳的な快樂を押しつけて

幸福感と一体になった
快樂が押し寄せ

私自身の身体…
そして—

心の奥底から





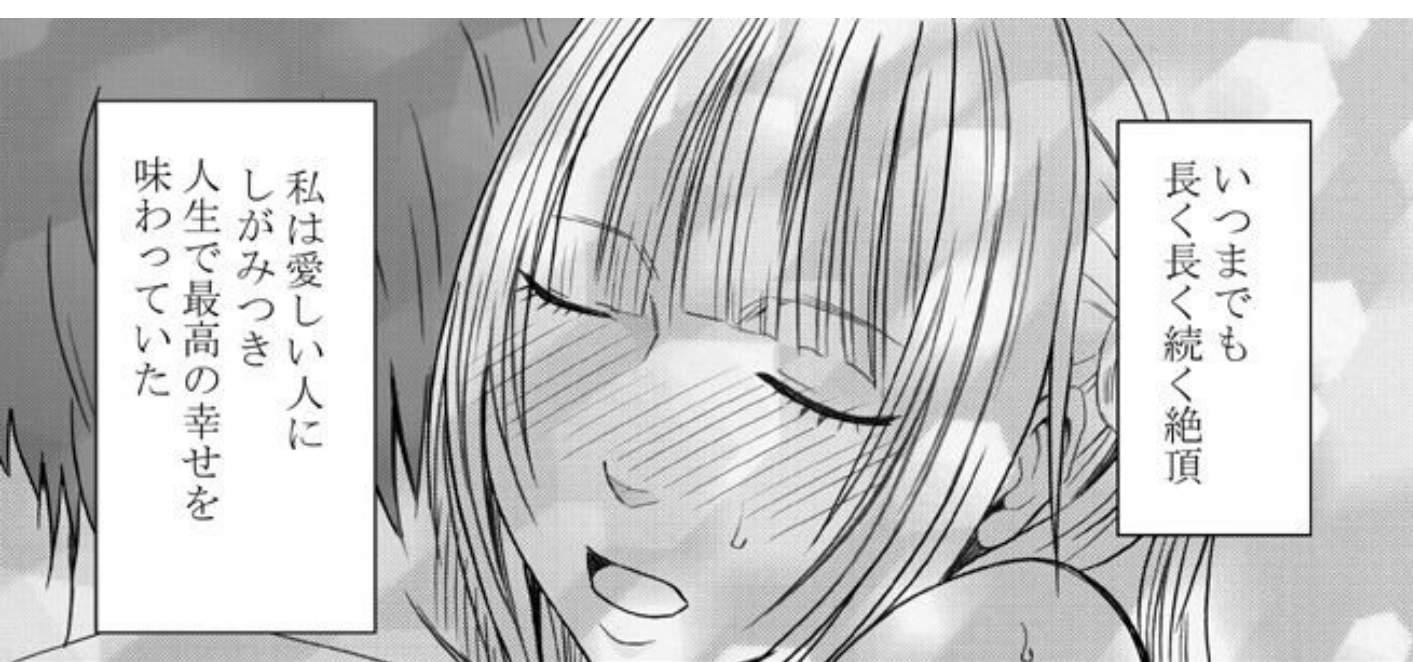
悦びが



あふれてた

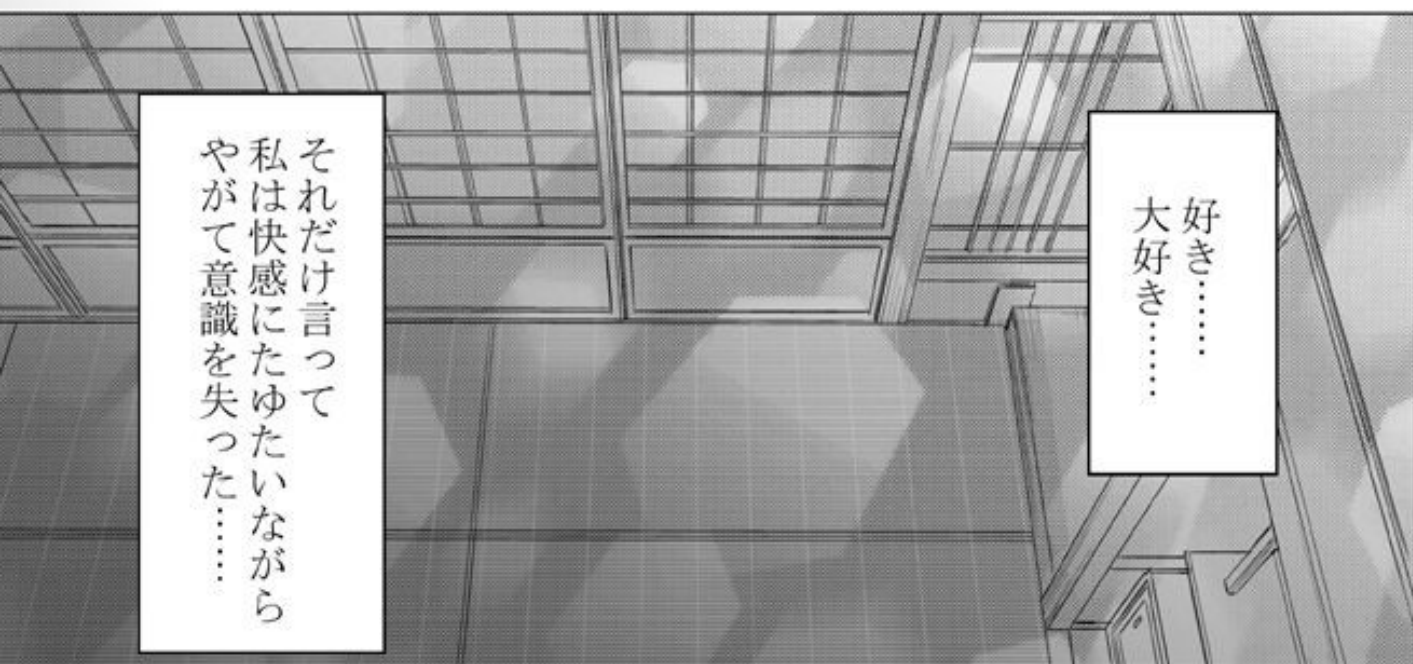







いつまでも
長く長く続く絶頂

私は愛しい人に
しがみつき
人生で最高の幸せを
味わっていた



好き……
大好き……

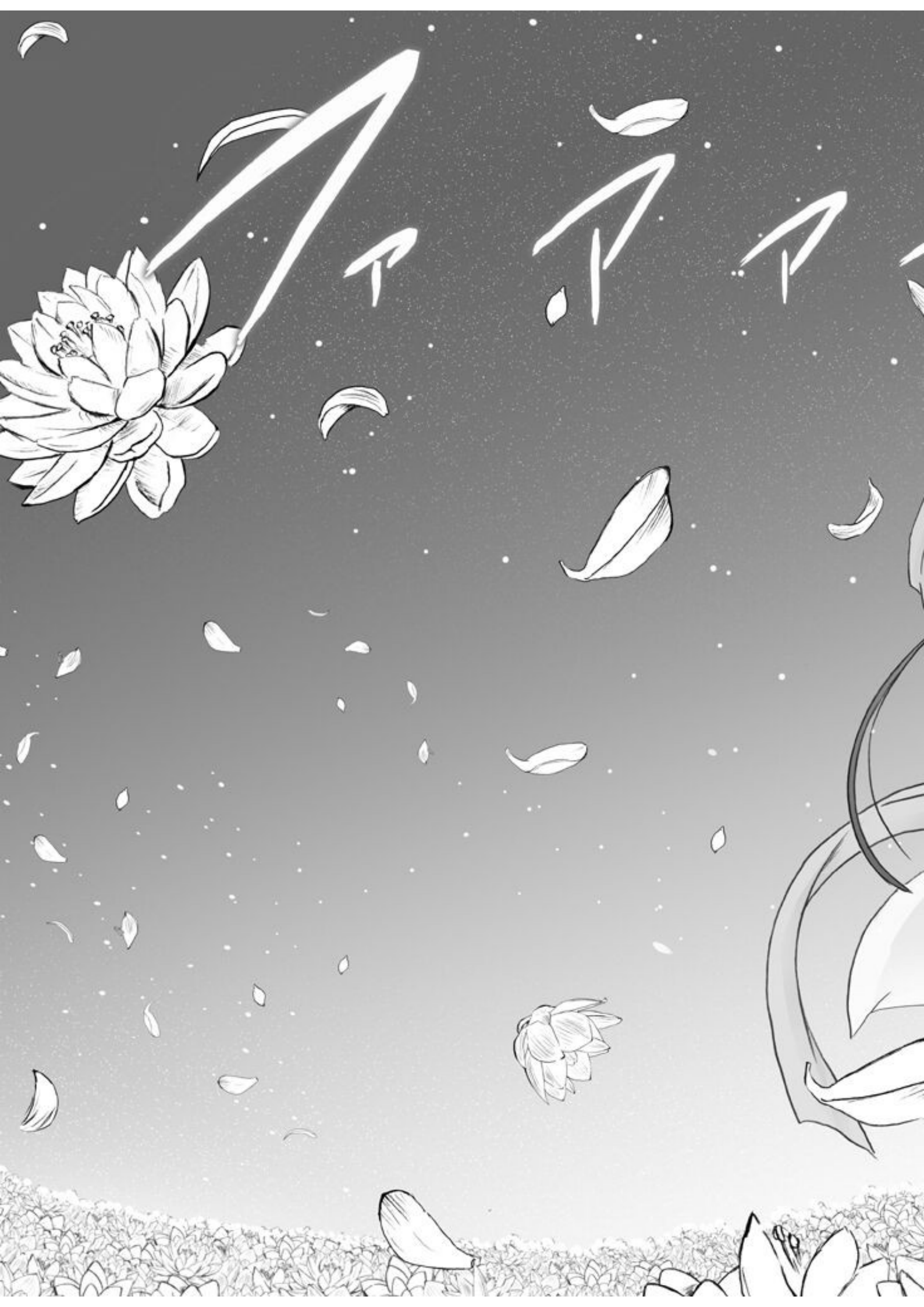
それだけ言って
私は快感にたゆたいながら
やがて意識を失った……



この感覚……
この快感……
届いたかな……

ねえ……
鈴蘭……











どうしてこんなに

あたたかいの
かしら……

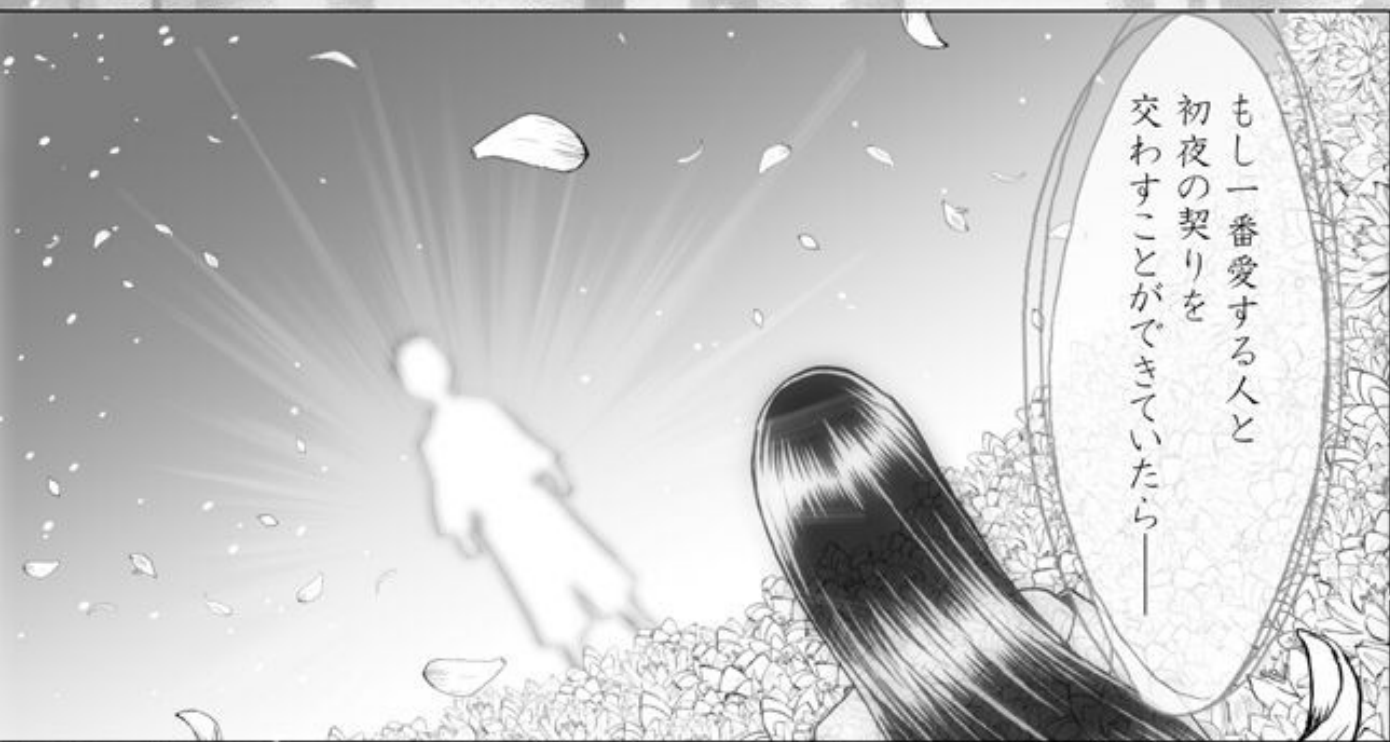
究極の快楽か……

……




ずっとやり直したかった

あの初めてを
奪われた日を



もし一番愛する人と
初夜の契りを
交わすことができたら――



あの夜以来
全てを諦めたと思っていた――
でも私は

何ひとつ諦めることができずに
ここまで来てしまっただけ
だったのね



清兵衛……
だいぶ遅れてしまった
けれど

今から私もあなた
のところに行くわ
……



好きな人に初めて
を捧げるよりも
素晴らしい快樂
なんてない

今ならそれがわかる



愚かな私を

許してくれる
かしら……？



あ……でも
待って……

最後に
ひとことだけ



私に大切なことを
気づかせてくれた
あの小娘に……

ひとことだけ
言ってから
行くわね



……

ありがとうヒカリ

あなたにめぐりあえて
本当に良かった





ANOTHERストーリー 後編

これはもし
さまざまなものに襲われたヒカリが
うまく逃げられずに
そのままやられてしまっていた場合を
描いた物語です。



もしライフセーバーの手から
Another Story 逃げられなかったら…



圧倒的な力で押さえつけられたヒカリは
どうすることも出来ずに
そのまま男たちに
挿入を許してしまった

同時に
鈴蘭がいなくなつてから
ヒカリの中でくすぶっていた
カラダの欲求が一気に
爆発してしまい

犯されているにも
かわらず
自分でも信じられないほどの
激しい快感で
イキまくってしまった



一度 炎を
焚きつけられてしまったカラダは
もう抑えることができなくて

激しく痙攣を繰り返し
バカみたいにあえぎ声をあげて

結局
男たちに後ろの穴の
処女まで奪われてしまった

ぐわんごっ

ぐわんごっ

感情が爆発した
ストーカー男を止めることはもう
出来なかった

荒ぶる肉棒が
ヒカリの中に強引に
入ってきて…



違うッ……!

私は……
あなたなんかの……!



ヒカリちゃん……!
ヒカリちゃん……!

これでもう
ヒカリちゃんは
ボクのモノですよ……!

ねえ!?
そうですよねえ!?



お母が……!
お母が……!

お母が……!
お母が……!

お母が……!
お母が……!

お母が……!
お母が……!

お母が……!
お母が……!

お母が……!
お母が……!

まだ
そんなこと
言うんですか……!?

もう
ひとつになってるん
ですよ!?

ホラ

ヒカリちゃんだって
こんなに
気持ちよさそうじゃ
ないですか……!

ああ
たまらない
ボクのモノで
ヒカリちゃんが
イッてる……!

長時間の寸止めの反動で
ヒカリのカラダは
もう何をされても
イクような状態にされて
しまっていた



初めての
挿入

肉棒が
奥の一番キモチイイ部分を
突き動かすたびに

眠っていたカラダの
快感がすべて
呼び起こされる

鈴蘭の10000年分の
快感が…
すべて…

たとえそれが
望まないものであっても

カラダは拒絶できない



